

- 一、本表ハ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル金額ト其ノ貸出額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト
- 二、備考欄ニハ資金殘額ノ將來貸出見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト
- 三、農工銀行、北海道殖産銀行ハ預金部直接引受ニ依ル資金ノ外日本勸業銀行引受ニ依ル資金ノ分ヲモ本表ニ記載シ備考欄ニ其ノ旨明記スルコト
- 四、貸付金ノ形式ニ依リ融通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記載又ハ別欄ニ貸付金ト明記シ尙借用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト

三〇 簡易生命保險積立金貸付規則

大正八年八月十九日 逓信省令第七十四號
改正大正九年十二月二十八日 逓信省令第二百二十四號

- 第一條 簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ簡易生命保險積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ組合ニ對シ本規則ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス
- 第二條 積立金ノ貸付ハ年賦償還貸付、半年賦償還貸付及定期償還貸付トス
- 第三條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニ在リテハ元金ト利息トヲ併セテ之ヲ計算シ每期

同一ノ金額ヲ償還セシム

貸付金ノ年賦及半年賦償還ニ付テハ五年内ノ据置期間ヲ設クルコトヲ得但シ其ノ期間内ノ利息ハ此ノ限ニ在ラズ

年賦償還貸付及半年賦償還貸付期間ハ前項ノ据置期間ヲ除キ二十年内トス

第四條 定期償還貸付ニ在リテハ一回又ハ數回ニ元金ヲ償還セシム

定期償還貸付ノ貸付期間ハ五年内トス

第五條 年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニシテ据置期間ヲ設ケタルモノニ在リテハ契約ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中ニ於テ貸付後一年内ヲ限り貸付金ノ分割交付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ定期償還貸付ニ付之ヲ準用ス

第六條 地方自治團體ニ非サル者ニ積立金ノ貸付ヲ爲ス場合ニハ其ノ借主ヲシテ擔保ヲ提

供シ又ハ保證人ヲ立テシムルコトアルハシ

第七條 積立金ヲ借入レムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル簡易生命保險積立金借入申込

書正副二通ニ記名調印ノ上其ノ主タル事務所又所在地ヲ管轄スル逓信局ヲ經由シテ之ヲ

逓信大臣ニ提出スルコトヲ

一、金額

二、目的

簡易生命保險積立金貸付規則

三 償還方法

四 完済期限

五 借主ノ主ナル事務所

貸付金ノ受領時期(分割交付ヲ受ケムトスルモノ)ハ之ヲ前項ノ借入申込書ニ附記スヘシ

第八條 前條ノ借入申込書ニハ借入ノ目的タル事業ノ計畫、豫算、費用調達方法、債務償還資源及借主ノ當該年度ノ歳入歳出豫算、最近年度ノ決算ノ大要ヲ記載シタル書類並左

列ノ區別ニ依ル書類各二通ヲ添附スヘシ

一 地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及組合規約アルモノハ其ノ規約ノ謄本

二 公共組合ニ在リテハ定款又ハ規約、起債決議書及最近年度事業報告書ノ謄本

三 前各號以外ノ法人又ハ組合ニ在リテハ定款又ハ規約及最近年度事業報告書ノ謄本

四 貸借對照表及財産目錄

五 起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノハ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ許可申請

中ノモノニ在リテハ許可セラレタルトキ速ニ之ヲ簡易保險局ニ送付スヘシ

附一 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三 負債整理事業資金特別融通及損失補償

二 關スル規程

第一條 市町村ハ負債整理組合ガ負債整理ヲ爲ス組合員ノ負債償還計畫及經濟更正計畫樹

立セラレ且負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定成リタル場合ニ於テ農村負債整理組合法第二

條ニ規定スル負債ノ償還資金又ハ同法第十一條第二項ニ規定スル土地購入ニ必要ナル資

金ヲ組合員ニ對シ貸付スル爲ノ資金ニ充ツル爲農村負債整理組合法第二十六條ノ規定ニ

依ル特別融通(以下單ニ特別融通ト稱ス)ヲ爲スコトヲ得

第二條 市町村ガ特別融通ヲ爲ス場合ニ於テハ負債整理組合ヲシテ特別融通ニ因ル資金ヲ

以テ一組合員ニ對シテ爲ス負債償還資金貸付額ノ最高限度ヲ定メシタルコトヲ要ス

前項ノ負債償還資金貸付額ノ最高限度ハ特別ノ事由ニ因リ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場

合ヲ除クノ外一組合員ニ付千圓ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ負債整理ノ爲其ノ所有地ヲ處分

スル組合員ニ對スル負債償還資金貸付額ノ最高限度ハ特別融通ニ因ル資金ヲ以テ其ノ土

地ヲ購入スル組合員ニ對シテ爲ス土地購入資金貸付額ヲ千圓ヨリ控除シタル金額ヲ超ユ

ルコトヲ得ズ

第三條 市町村ハ現ニ農村負債整理組合法第十一條ノ事業ノ一部ヲ休止シ又ハ其ノ全部若

特別融通及損失補償ニ關スル規程

第一條 市町村ハ休止ニ準ズル狀況ニ在ル負債整理組合ニ對シテハ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第四條 市町村ハ負債整理組合ノ負債整理事業資金ニ餘裕アリト認ムル場合ニ於テハ特別融通ノ契約ニ因ル貸付金ノ交付ヲ爲スコトヲ得

第五條 市町村ノ特別融通ハ農村負債整理組合法施行ノ日ヨリ二十年以内ニ於テ其ノ償還期限ヲ定メ割賦償還貸付方法ニ依ルベシ此ノ場合ニ於テハ三年以内ノ据置期間ヲ定ムルコトヲ得

負債整理組合ハ前項ノ規定ニ依リ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ期限前特別融通ノ債務ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ爲スコトヲ得

第六條 市町村ハ特別融通ヲ爲ス場合ニ於テハ擔保トシテ負債整理組合ガ組合員ニ對シテ有スル貸付債權ヲ徵スベシ

第七條 市町村ハ特別融通ヲ爲ス場合ニ於テ特別ノ必要アリト認ムルトキニ限り負債整理組合ノ役員ノ個人ノ資格ヲ以テスル保證書ヲ徵スルコトヲ得

第八條 市町村ハ必要アル場合ニ於テハ擔保設定又ハ之ニ伴フ登記其ノ他ノ對抗要件完備前ト雖モ負債整理組合ノ役員ノ個人ノ資格ヲ以テスル連帶保證書ヲ徵シテ特別融通ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ速ニ擔保ヲ設定シ又ハ登記其ノ他ノ對抗要件ヲ完備スベク其ノ完備

後ハ市町村ハ當該負債整理組合ノ役員ノ個人ノ資格ヲ以テスル連帶保證ヲ免除スベシ

第九條 市町村ガ特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル貸付條件ニ付テハ本規程ニ別段ノ定アルモノ及本規程ニ基キ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クハ外地方長官ハ認可ヲ受クベシ

第十條 市町村ハ特別融通ノ契約中ニ負債整理組合左ノ各號ノ出ニ該當スル場合ニ於テ其期限前ト雖モ特別融通ノ債務ノ全部又ハ一部ヲ返済セシムベキ旨ノ規定ヲ爲スベシ

第一 役員其ノ他特殊ノ關係者ニ對シ不當ニ利益ヲ得セシムル等其ノ資金ノ利用公正ナラズト認メラルトキ

第二 負債整理事業資金ニ餘裕ヲ生ジタリト認メラルトキ

第三 組合員ヨリ特別融通ニ因ル資金ヲ以テスル貸付金ノ返済ヲ受ケタルトキ

前項第一號ノ契約條項ニ基キ市町村ガ特別融通ノ債務ヲ返済セシメシムル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 市町村ハ負債整理組合ガ特別融通ノ債務ノ辨濟ヲ怠リタル場合ニ於テハ百圓ニ付日歩三錢以内ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ徵スルコトヲ得

第十二條 市町村ハ特別融通ニ付調査費ヲ徵スルコトヲ得但シ特ニ多額ノ調査費用ヲ要スル場合ニ於テ其ノ實費ヲ徵スルハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 北海道府縣農村負債整理組合法第二十八條ノ損失補償ノ契約ニ於テ同法第三十

條但書ノ規定ニ依リ損失補償金中市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲サシ
トスルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 農村負債整理組合法第二十八條ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ損失補償ノ契約ヲ爲
シタルトキハ遲滞ナク其ノ契約書ニ北海道會又ハ府縣會及市町村會ノ議決書ノ謄本竝ニ
市町村ノ負債整理事業資金特別融通計畫書ヲ添附シテ主務大臣ニ報告スベシ

農村負債整理組合法第二十八條ノ損失補償ノ契約ヲ變更シタルトキ亦前項ニ同ジ

第十五條 市町村ハ特別融通ヲ爲シタル負債整理組合ニ對シ主務大臣、府縣知事ハ北海道
廳長官ヲ含ム以下同ジ）又ハ市町村長ニ於テ必要アリト認めルトキハ何時モ其ノ資
産、負債及事業ノ狀況ヲ調査シ又ハ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得ル旨ノ契約ヲ締
結スベシ

府縣知事又ハ市町村長ガ前項ノ契約ニ依リ調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシメタルトキハ其
ノ結果ヲ府縣知事及主務大臣ニ報告スベシ

第十六條 市町村ハ毎年度六月毎ニ當該期間中ニ受理シタル特別融通ノ申込ニ對シハ處理
狀況報告（第一號様式）、當該期間中ニ於ケル特別融通報告（第二號様式）及當該期間中
ニ於ケル延滞報告（第三號様式）ヲ作成シ遲滞ナク府縣知事及主務大臣ニ之ヲ提出スベ
シ

市町村ハ毎年五月三十一日迄ニ前年度ノ特別融通業績報告（第四號様式）ヲ府縣知事及
主務大臣ニ提出スベシ

第十七條 市町村ハ特別融通ニ關シ特別會計ヲ設クルコトヲ要ス

第十八條 本規程ノ適用ニ關シテハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業
ヲ行フ法人ハ之ヲ負債整理組合ト看做ス

第十九條 市本規程中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキ
モノトシ

第二十條 負債整理事業資金特別融通及損失補償ニ關シテハ本規程ニ依リ外主務大
臣之ヲ定ム

本令ハ農村負債整理組合法施行令日計之ヲ施行ス

（様式略）

三三 自作農創設維持資金貸付規程

自作農創設維持資金貸付規程

市町村又ハ産業組合ニ資金ヲ貸付スル者ハ其ノ資金ハ左ノ事
 第二條 前條ノ規定ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケタル市町村又ハ産業組合ハ其ノ資金ヲ左ノ事
 項ヲ行フ者ニ貸付スルノ外之ヲ他ニ利用スルコトヲ得ス
 一 自作田畑ト爲スヘキ土地ノ購入
 二 知事ニ於テ適當ト認ムル自作田畑ノ維持（自作田畑トシテ土地ヲ購入シタルニ因リ
 本令生シタル其ノ土地ノ抵當債務ノ借替）
 第三條 資金ノ貸付利率ハ年三分五厘トス
 市町村又ハ産業組合ヨリ轉貸ノ場合ニ於ケル利率ハ前項ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス
 第四條 貸付ヲ受ケタル資金ハ据置期間ヲ一年以内償還期間ヲ二十四年（据置期間ヲ除ク）
 トシ年賦償還ノ方法ニ依リ毎期同一ノ金額ヲ償還スルモノトス
 第五條 市町村又ハ産業組合資金ノ償還ヲ怠リタルトキハ償還金百圓ニ付一日三釐ノ割合
 ヲ以テ遅延利息ヲ徴收ス
 第六條 資金ノ貸付ヲ受ケシトスル者ハ借入申請書（様式第一號）ニ左ノ書類ヲ添付シテ
 月末日迄ニ之ヲ知事ニ提出スヘシ
 一 事業計劃書
 二 事業ニ關スル收支豫算書

三 貸付ニ關スル規程
 四 借入調書（様式第二號）
 五 市町村ニ在リテハ起債決議書謄本産業組合ニ在リテハ借入額最高限度決議書謄本最
 近年度事業報告書財産目録及貸借對照表
 第七條 前條ノ書類ニ記載セル事項ニ變更アリタルトキハ資金借入ノ申請ヲ爲シタル者其
 ノ旨直ニ知事ニ届出ツヘシ
 第八條 市町村又ハ産業組合資金貸付ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ貸付先ヲ定メ
 其ノ貸付ニシテ第二條第一號ニ係ルモノナルトキハ所有者ノ土地讓渡豫約書、第二條第
 二號ニ係ルモノナルトキハ抵當權設定ノ登記謄本ヲ添ヘ知事ニ資金交付ノ請求（様式第
 三號）ヲ爲スヘシ
 第九條 市町村又ハ産業組合資金交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ借入契約書（様式第四號）
 ヲ知事ニ提出スヘシ産業組合ニ在リテハ知事ノ適當ト認ムル擔保物件ヲ提供スヘシ
 第十條 資金ノ貸付ヲ受ケタル者第六條ノ書類ニ記載セル事項ヲ變更セムトスルトキハ知
 事ノ認可ヲ受クヘシ
 第十一條 資金ノ貸付ヲ受ケタル者資金ノ轉貸ヲ行フ場合ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 一 借受人ハ其ノ市町村ノ住民ニシテ現ニ耕作ニ從事シ自作田畑ノ經營ヲ持續シ得ル見

一 返アル者ナルコトヲ認ムル者ニ對シテハ其ノ土地ノ小作地ナル場合ニ於テハ借受人ハ其ノ土地ノ小作人ナルコト但
 借受人其ノ土地ノ小作人ニ非サル場合ト雖購入ニ關シ其ノ土地ノ小作人ノ同意ヲ得
 然ラサル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 二 借受人自作田畑トシテ其ノ土地ノ經營ヲ持續シ得ル爲メ土地ノ購入價格ハ附録ニ定ム
 算式ニ依ル標準價格及當該地方ノ土地ノ普通價格ヲ超エサルコト書(對左ノ四款)
 四 小作權賣買ノ慣行アル地方ニ於テ土地ノ購入ニ際シ其ノ土地ノ小作權ヲ併セ購入ス
 五 場合ハ土地ノ購入價格ニ小作權ノ購入價格ヲ加算シタルモノ前號ノ標準價格及普通
 標準價格ヲ超エサルコト
 六 維持セムトスル土地ノ抵當債務額ハ第三號ノ標準價格及普通價格ヲ超エサルコト且其ノ購
 入價格ハ購入當時ニ於ケル第三號ノ標準價格ヲ超エサルコト
 七 購入シ又ハ維持セムトスル土地ノ價格ハ四千圓ヲ超エサルコト但シ現ニ本人又ハ其
 四ノ家族ニ於テ田畑ヲ所有スル場合之ニ對スル貸付ハ本人及其ノ家族ノ所有スル田畑
 (維持セムトスル田畑ヲ除ク)ノ價格ト購入シ又ハ維持セムトスル土地ノ價格トノ合計

八 額四千圓ヲ超エサルコト
 九 貸付金額ハ四千圓以内トシ土地ノ購入額又ハ土地抵當債務額ノ全額トスルコト但シ
 全額未滿ノ貸付ヲ受ケムトスル者ニ對スル貸付金額ハ其ノ要求額トスルコト
 十 貸付金ノ償還ニ付テハ第四條ノ規定ニ準據スルコト
 十一 借受人前號ニ依ル償還金額ノ外未償還金額ヲ償還セムトスルコトキハ之ヲ認ムルコト
 十二 購入シ又ハ維持シタル土地ノ收穫高不可抗力ニ因リ著シク減少シ又ハ皆無クナリ
 タルトキハ借受人ノ事情ニ應ジ適當ニ償還方法ヲ變更スルコト
 十三 購入シ又ハ維持シタル土地ノ全部ニ貸付金ノ擔保トシ第一抵當權ヲ設定セシムル
 十四 借受人償還ヲ了リタルトキト雖貸付ノ際決定シタル償還期間内及第十一號ニ依リ
 變更シタル償還期間内ハ知事ノ承認ヲ得ルニ非サルハ其ノ土地ヲ小作ニ附セサルコト
 十五 及第十二號ノ抵當權ヲ除ク外其ノ土地ニ抵當權ヲ設定セサルコト
 十六 借受人ハ前號ノ期間内其ノ土地ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得サルモノトスルコト但シ
 知事ノ承認ヲ得テ其ノ土地ヲ貸付者ニ又ハ貸付者ヲ經テ第三者ニ讓渡スハ此ノ限ニ在
 ラズ
 十七 前號ノ規定ニ依リ貸付者ヲ經テ土地ヲ第三者ニ讓渡ス場合ニ於テハ其ノ讓受人ハ
 自作農創設維持資金貸付規程

十一 第一號ノ資格ヲ具備シ且田畑ヲ所有セサル者又ハ第七號但書ニ該當スル者ニシテ借受人ノ債務ヲ引受クル者ナルコト此ノ場合ニ於テ讓受人ノ選定及讓渡價格ノ決定ハ貸付者ニ於テ之ヲ行フモノトス

十六 前號ノ讓受人ナキ場合他人ニ土地ヲ讓受スルキハ讓渡ノ際借受人ヲシテ未償還金額ヲ返還セシムルコト

十七 借受人第一號乃至第七號及第十二號乃至第十六號ノ規定ニ違反シタルトキ(第一號中ノ借受人其ノ市町村外ニ轉住シタル場合ヲ除ク)ハ違約金ヲ徵收シ且貸付金ノ未償還金額ヲ一時ニ返還セシメ又ハ左ノ金額ヲ以テ土地ヲ先買シ得ルコト

十八 購入價格ノ全額ニ相當スル金額ノ貸付ヲ爲シタル場合ハ償還ヲ受クル金額中元金ニ相當スル金額

十九 購入價格ノ一部ニ相當スル金額ノ貸付ヲ爲シタル場合又ハ維持ノ爲貸付ヲ爲シタル場合ハ償還ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル金額ニ貸付當時ニ於ケル其ノ土地ノ價格(購入ノ場合ニ在リテハ購入價格)ト貸付金額トノ差額ヲ加算シタル金額

第十二條 市町村又ハ産業組合資金ヲ轉貸スル場合ハ左ノ順位ニ依リ借受人ヲ選定スルモノトス但シ同順位ノ者ニ在リテハ簡易生命保險加入者ヲ先ニスルモノトス

一 主トシテ農業ニ依リ生計ヲ立ツル小作農又ハ自作兼小作農

二 主トシテ農業ニ依リ生計ヲ立ツル自作農又ハ農業労働者

第十三條 縣ニ於テ資金ノ貸付ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル所ニ從ヒ調査會ヲ設ケ其ノ調査審議ヲ經テ之ヲ行フモノトス

資金ノ貸付ヲ受ケタル市町村又ハ産業組合ニ於テ資金ノ轉貸ヲナサムトスルトキハ別ニ定ムル所ニ從ヒ調査會ヲ設ケ其ノ調査審議ヲ經テ之ヲ行フモノトス

第十四條 市町村又ハ産業組合ハ資金ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ其ノ貸付ヲ了スヘシ但シ知事ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 市町村又ハ産業組合前條ノ規定ニ依リ其ノ貸付ヲ了シタルトキハ左ノ書類ヲ添付シ遅滞ナク貸付調書(様式第五號)ヲ知事ニ提出スヘシ

一 借入契約書寫

二 土地所有權移轉登記抄本又ハ抵當權抹消登記抄本

第十六條 資金ノ交付ヲ受ケタル市町村又ハ産業組合ハ毎年四月末日迄ニ前年度收支決算書及事業報告書(様式第六號)ヲ知事ニ提出スヘシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ貸付ノ許可ヲ取消シ又ハ貸付金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルヘシ

一 本令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキハ第七條規定ノ貸付金ニシテ借受
 三 償還不確實ト認メタルトキハ此ノ場合ニ於テ借受人ノ選定及償還價格ノ決定ハ貸付
 四 知事ノ指示ニ從ハサルヲキル場合ニ於テハ貸付ノ補償金及償付金ハ全額又
 本令ニ公布ノ日ヨリ施行ス但シ第六條中十月末日アルハ大正十五年度ニ限リ八月十五日
 迄トス此ノ限内ニ於テハ本令ニ規定ノ償還金及償付金ノ規定ニ從ハサルコトナリ
 大正十四年縣令第十九號自作農造成資金貸付規程ハ之ヲ廢止ス但シ從前ノ規定ニ依リ縣費
 ヲ以テ利息ノ補給ヲ爲ス貸付金ニ關シテハ其ノ償還ヲ了ル迄從前ノ規定ハ仍其ノ効力ヲ
 有ス此ノ限内ニ於テハ本令ニ規定ノ償還金及償付金ノ規定ニ從ハサルコトナリ

第十一條 第三號ノ規定ニ依ル算式ニ據リて算出シタル額ハ其ノ償還金及償付金ノ額ニ
 備 考
 一 小作料ハ平年作ニ於ケル實納小作料ニ依ルコト但シ小作料ノ定メナキ土地ニ在リテハ其ノ土地ニ類似スル土地ノ
 小作料ニ依ルコトニシテ算出スル額ニ依リて算出スル額ヲ以テ小作料ニ代フルコト
 二 小作料力平年作ニ於ケル收穫高ノ五割五分以上ナル場合ハ其ノ五割五分ヲ相當スル額ヲ以テ小作料ニ代フルコト

小作料力平年作ニ於ケル收穫高ノ四割以下ナル場合ニ於テ農業經營費比較的多カラサルトキ其ノ他特殊ノ事由ナキ
 トキハ收穫高ノ四割迄ノ範圍ニ於テ適宜ノ程度ニ認定シタル額ヲ以テ小作料ニ代フルコトヲ得ルコト
 二 小作料及收穫高ノ價格ニ換算スル場合ハ其ノ物ノ價格ハ當該地方ニ於ケル最近五年ノ平均價格ニ依ルコト
 三 小作料購買ノ慣行アル地方ニ於テ土地ノ購入ニ際シ其ノ土地ノ小作料併セ購入スル場合ハ小作料ハ小作料ノ買
 借料(又ハ小作料)ヲ含ムモノヲ以テスルコト
 樣 式 (略)

三 中小商工業資金融通損失補償規程

昭和七年十二月二十五日縣告示第一、一六七號
 同 年十二月二十七日縣告示第一、三〇四號

第一條 縣ハ知事ノ指定スル金融機關ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル中小商工業資金ヲ以テ貸
 付ケタル爲被リタル損失ヲ一定金額ヲ限度トシテ補償ス十一月三十日迄ニ於テ是レ借受
 一 中小商工業者等産業資金
 二 工業組合普通事業資金
 三 金融機關ノ自己資金(預金部資金ヲ除キタル凡テノ資金ヲ謂フ)又ハ工業聯合會
 第二條 左ノ各號ニ掲クル金融機關ハ前條ノ指定ヲ受クルコトヲ得但シ借受人(資金ヲ最
 終ニ於テ利用スル者以下同シ)ニ直接貸付ヲ爲ス場合ニ限リ補償ヲ受タルモノトス其限
 中小商工業資金融通損失補償規程

二 中小商工業業者等産業資金ヲ以テ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ銀行、工業組合又ハ信用組
合ニシテハ各該ニ附シテハ金融機關ハ前掲ノ規定ニ受メハコトモ貸付ニ當テハ貸受人ノ資金ノ量

二 工業組合普通事業資金ヲ以テ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ農工銀行又ハ工業組合

三 金融機關ガ自己資金ヲ以テ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ銀行、信託會社、工業組合、信
用組合又ハ信用組合聯合會等

第三條 第一條ノ指定ヲ受ケントスル金融機關ハ昭和七年十一月三十日迄ニ知事ニ指定ノ
申請（様式第一號）ヲ爲スヘシ但シ信用組合及信用組合聯合會ニ限リ昭和八年一月末日

迄トス

第四條 借受人ハ左ノ各號ニ掲グルモノナルコトヲ要ス

一 中小商工業業者等産業資金ニ在リテハ管内同一市町村内ニ引續キ一年以上居住シ商工
業等ヲ營ミ且現ニ商工業等ヲ營ム世帯主

二 工業組合普通事業資金ニ在リテハ工業組合又ハ其ノ組合員

三 金融機關ノ自己資金ニ在リテハ工業組合、商業組合、産業組合又ハ管内同一市町村
内ニ引續キ一年以上居住シ商工業等ヲ營ミ且現ニ商工業等ヲ營ム世帯主若ハ會社

第五條 貸付金額ハ個人ニ對スル貸付ニ在リテハ一人當リ二千圓以内（無擔保ノ場合ハ一
千圓以内）會社ニ對スル貸付ニ在リテハ一會社當リ五千圓（無擔保ノ場合ハ二千圓以内）

以內トス

第六條 工業組合、商業組合、産業組合ニ對スル貸付ニ在リテハ制限ヲ設ケズ、其ノ利率ハ
第六條 資金ノ用途ハ借受人ガ個人又ハ會社ナルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要

一 原料、材料又ハ商品ノ買入、賃金ノ支拂等ノ運轉資金

二 工場機械設備又ハ店舗ノ改善等ノ固定資金

借受人ガ組合ナルトキハ其ノ事業資金（信用事業資金ヲ除ク）トス

第七條 貸付金ノ償還方法ハ貸付ノ日ヨリ五ヶ年以内（一ヶ年以内ノ据置期間ヲ含ム）ノ
年賦半年賦若ハ月賦償還又ハ二ヶ年以内ノ定期償還トス但シ中小商工業業者等産業資金

在リテハ年賦償還ヲ除ク

第八條 貸付金ノ利率ハ左ノ通トス

一 預金部資金ニ在リテハ其ノ融通要綱ニ依ル但シ工業組合ガ工業組合普通事業資金ヲ
貸付組合員ニ轉貸スル場合ハ年八分以内

二 金融機關ノ自己資金ニ在リテハ年八分以内

貸付金ノ延滞利率ハ知事ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第九條 無擔保貸付ヲ爲ス場合又ハ擔保物ノ價額過少ナルトキハ該貸付ノ保証人三名以上

中小商工業資金融通損失補償規程

一九五

ヲ立テシムルコトヲ要ス但シ金融機關ガ自己資金ヲ以テ貸付ヲ爲ス場合貸付金額ノ一割以上ヲ天引貯金トシテ償還ノ財源ニ充ツルカ又ハ同業者十名以上ノ連帶借受ノ方法ニ依ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 金融機關ニ於テ貸付ヲ爲サントスルトキハ其ノ都度知事ノ承認ヲ受クヘシ(様式第二號) 金融機關ガ貸付ヲ了シタルトキ(様式第二號ニ準シ作成) 辨濟ヲ受ケタルトキ(様式第三號) 又ハ擔保物ノ處分ヲ爲シタルトキ(様式第四號) ハ遲滞ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十一條 損失ノ補償ハ金融機關毎ニ貸付元金總額ノ二割ヲ限度トシ其ノ總損失額ノ九割以內トス

第十二條 貸付金ノ辨濟期日後一ケ年ヲ經過スルモ尙其ノ全部又ハ一部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサルトキハ金融機關ハ補償金交付申請書(様式第五號) ニ損失計算書(様式第六號) 及關係證據書類ヲ添付シテ知事ニ補償金交付ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ知事ハ之ヲ調査シ補償審査委員會ノ議ニ諮リテ金融機關ノ損失額ヲ決定ス

第十三條 補償ヲ爲スヘキ損失ハ貸付元金、利子及辨濟期日後一ケ年間ノ延滞利子ニシテ借受人又ハ保證人ヨリ辨濟ヲ受クルコト能ハサル金額中ヨリ左記各號ノ金額ヲ控除シタ

- 一 擔保物ヲ處分シタルトキハ之ニ因リ得タル金額
- 二 處分未了ノ擔保物アルトキハ其ノ價額ヲ補償申請當時ノ時價ヲ標準トシテ評價シタル金額
- 三 延滞利率ガ當該資金ノ原貸付利率ヨリ高率ナルトキハ該延滞利率ニ依ル利子額ト原貸付利率ニ依ル利子額トノ差額ニ相當スル金額
- 四 中小商工業者等産業資金ノ利子ニシテ支拂ヲ受クルコト能ハザルモノニ付テハ其ノ利子中金融機關ガ滞貨準備ノ爲積立ツルコトヲ要スル利鞘ニ相當スル金額

前項第二號ノ處分未了ノ擔保物ガ最終辨濟期日後二ケ年以内ニ處分セラレタル場合ニ於テ其ノ處分價額ガ評價額ニ達セザルトキハ其ノ不足額ハ之ヲ補償ヲ爲スヘキ損失額中ニ加算ス

第十四條 縣ニ補償審査委員會ヲ置キ損失額ノ決定、擔保物ノ評價其ノ他補償ニ關スル重要ナル事項ハ其ノ議ニ諮リテ知事之ヲ決定ス

第十五條 貸付金一口毎ノ最終辨濟期日後二ケ年以内ニ補償ノ申請ヲキトキ其ノ貸付ニ因リ生シタル損失額ハ當該金融機關ノ補償ヲ受タズ

總損失額中ヨリ之ヲ控除ス

中小商工業資金融通損失補償規則

第十六條 金融機關ハ補償金ノ交付ヲ受ケタル後ト雖懈怠ナク其ノ債權ノ取立ヲ爲ス義務アルモノトス知事必要アリト認ムルトキハ金融機關ニ對シ補償ヲ爲シタル部分ニ付債權ノ讓渡ヲ要求スルコトアルヘシ此ノ場合金融機關ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ正當ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合知事ハ補償審査委員會ノ議ニ諮リテ其ノ正否ヲ決定ス

第十七條 金融機關ハ補償金受領後借受人又ハ保證人ヨリ補償ヲ受ケタル債權ノ辨濟ヲ受ケタル場合又ハ擔保物ガ評價額ヲ超エテ處分セラレタル場合ニ於テ金融機關ガ其ノ被リタル損失額中補償額ヲ控除シタル部分ヲ填補シテ尙剩餘アルトキハ之ヲ縣ニ返納スヘシ但シ補償額ヲ超ユルコトヲ要セス

第十八條 金融機關ハ本規程ニ依ル貸付ニ付テハ他ノ帳簿書類ト別ニシテ經理スルコトヲ要ス

第十九條 知事ハ何時ニテモ金融機關ニ對シ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 知事ハ金融機關ノ被リタル損失ガ其ノ故意若ハ重大ナル過失又ハ本規程違背ニ因リテ生ジタリト認ムルトキハ補償審査委員會ノ議ニ諮リテ其ノ損失ニ對シ補償ヲ爲サザルコトアルベシ

第二十一條 知事ハ金融機關ガ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ補償審査委員會ノ議

ニ諮リテ既ニ交付シタル補償金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命シ又ハ將來ニ向テ指定ヲ取消スコトアルヘシ

一 虚偽ノ申請又ハ報告ヲ爲シタルトキ

二 第十九條ノ報告ヲ爲サザルトキ

三 其ノ他本規程ニ違背シタルトキ

附 則

第二十二條 本規程ニ依リ貸付ヲ爲ス期間ハ昭和七年十二月一日ヨリ昭和九年三月三十一日迄トス但シ其期間中ト雖本規程ニ依ル貸付金ノ總額壹百萬圓ニ達シタルトキハ之ヲ打切ルコトアルヘシ

第二十三條 預金部資金ニ付テハ本規程ニ規定ナキ事項ハ凡テ其ノ融通要綱ニ依ルモノトス

様式第一號

申 請 書

當

儀貴縣中小商工業資金融通損失補償規程第一條ノ御指定相受度此段及申請候也

追テ御指定ノ上ハ同規程ノ各條確ク履行可致候

年 月 日

貸 付 機 關 名

代 表 者 氏

名 印

中小商工業資金融通損失補償規程

中小商工業資金融通損失補償規程
擔保物處分報告書

11011

債務者	
貸付金額	
貸付年月日	
貸付利率	
延滞利率	
契約上ノ辨済期日及辨済方法	
一部ノ辨済アリタルトキハ其ノ金額及辨済年月日	
處分シタル擔保物ノ名稱、數量及其ノ處分ニ依リテ得タル金額	
右ノ通擔保物件ヲ處分致候條此段及報告候也	
年 月 日	
知事氏名宛	代表者 氏 名

様式第五號

補償金交付申請書

貴縣中小商工業資金融通損失補償規程ニ基テ貸付金中別紙損失計算書ノ通損失有之候ニ付テハ補償金交付相成度同規程第十二條ニ依リ證據書類相添ヘ此段及申請候也

年 月 日
知事氏名宛
代表者 氏 名

様式第六號

損失計算書

債務者 住所、氏名
保證人
貸付金額
貸付利率
延滞利率
貸付年月日
契約上ノ辨済期日及辨済方法
一部ノ辨済アリタルトキハ其ノ金額及辨済年月日
處分シタル擔保物ノ名稱、數量及其ノ處分ニ依リテ得タル金額
(處分ニ要シタル費用ヲ控除シタルトキハ其ノ費用及金額ヲ附記スルコト)

未償還元利金額
延滞利息

未處分擔保物ノ名稱、數量及其ノ見積價格
損失金額
補償ヲ受クヘキ中小商工業資金貸付元金總額及貸付ニ依ル損失金
補償金受領額
補償金要求額
右ノ通相違無之候也

中小商工業資金融通損失補償規程

11011

様式第七號

大正十五年 月 日

代表者 氏

名

補償貸付金辨濟受領報告書

債權者

補償年 月 日

債權總額

延滞利子

辨濟年 月 日

運送金額又ハ損失補填金額

損失金 残額

右ノ通辨濟有之候條此段及報告候也

年 月 日

知事 氏名 宛

1104

市制町村制施行規則抄

大正十五年六月二十四日内務省令第十九號

第六十四條 市町村ハ收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル市町村歳計現金ヲ郵便官署又ハ銀行

若ハ信用組合ニ預入セシムルコトヲ得

前項ノ銀行及信用組合ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

本令中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ財務ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

所得税法抄

大正九年七月法律第十一號

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セズ

- (自一號至三號略)
- 四 郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
- (以下略)

市町村制施行規則抄 所得税法抄

1105

三六 資本利子税法抄

大正十五年三月二十七日法律第十二號

第一條 本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子税ヲ課ス

第二條 資本利子税ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス
甲種 公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益
乙種 (略)

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲クルモノニハ資本利子税ヲ課セス
一 所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子
其二 貯蓄債券又ハ復興債券ノ利子

本令中「貯蓄債券」ニ關スル事項ハ「復興債券」ニ關スル事項ニ準ジテ之ニ依リテ之ニ適用ス

三七 登記税法抄

明治二十九年三月法律第二十七號
(改正十六回略)昭和二年三月二十九日法律第六號

第十九條 左ニ掲クルモノハ登記税ヲ課セス但シ第八號、第九號、第十號、第十一號、第十二號及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル
(自一號至六號略) 附則 林部省令第二十號

第七 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、生鮮共同施設組合、漁業組合、農業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付産業組合法、製絲業法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キ登記

八 自作農ノ創設維持ヲ爲ニスル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

九 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會カ自作農ノ創設維持ヲ爲ニスル土地所有權ノ取得ノ登記

十 北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ヲ供給ヲ爲ニスル土地所有權ノ取得ノ登記

十一 住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリ權利ヲ取得ノ登記

十二 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣

市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記

- 十一 産業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會ハ輸出組合ノ發スル出資證券
(自十二至十三略)
- 十四 倉庫證券
(自十五至二十四略)
- 二十五 定款又ハ組合契約書
(自二十六至三十四略)
- 第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
(自一至四並八略)
- 五 小切手
- 六 産業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券
- 七 記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形
- 九 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ
(自十至十五略)
- 十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書
(十七略)

- 十八 手形ノ引受及保證
- 十九 手形又ハ證券ノ拒絕證書
- 二十 手形又ハ證券ノ複本及謄本
- 二十一 農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券
(自二十二至二十五略)

附則 山則
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

四〇 印紙稅ニ關スル主稅局通牒

大正四年十一月二十九日

- 産業組合ニ於テ作成シ又ハ之ニ向テ發スル證書ノ印紙稅ハ左ノ通り取扱フコト
(自一至五並七ハ昭和二年三月法律第七號ニ依リ消滅)
- 六 産業組合ニ於テ其組合員又ハ組合員以外ノ者ニ對シ發スル受取書ハ營業ニ關セサル受取書トシテ第五條ニ依ルコト
(參照)

合ニ於テハ道府縣農會ノ費用）又ハ其ノ事業ノ爲要スル郡農會若ハ市農會ノ費用ニ對シ交付スル道府縣農會ノ助成金

(十、十一略)

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲タル書類ヲ添付シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一 事業計畫書

二 收支豫算書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度六月三十日迄ニ收支決算書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第二條 第一號、第五號、第六號及第八號乃至第十一號ノ費用ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年六月三十日迄ニ、同條第二號乃至第四號及第七號ノ費用ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度十二月十五日迄ニ事業成績書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第八條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ獎勵金交付ノ日ヨリ五年間其ノ事業ニ關スル報告ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十一條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

第四條 支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

四三 林業共同施設補助規程抄

第一條 林業ニ關スル共同施設助成ノ爲左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ毎年度豫算ノ定ムル範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

二 産業組合産業組合聯合會又ハ森林組合ニ於テ木炭生産者ノ爲施設スル木炭倉庫及木炭検査ニ付同業組合並同業組合聯合會ニ於テ木炭生産者ノ爲施設スル木炭倉庫ヲ新設

林業共同施設補助規程抄

又ハ改築スルトキハ該管スル合資會社ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 補助金ハ經費決算額ノ二分ノ一以内トシ竣工検査ノ後之ヲ定メ、木炭倉庫ニ在リテハ別記様式第一號木炭倉庫ニ在リテハ別記様式第二號ノ申請書ニ左ノ關係書類ヲ添付シ前年度四月末日限り知事ニ之ヲ差出スヘシ

二 木炭倉庫

第四條 工事設計書(別記様式第四號)ハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

設計圖(正面圖縮尺百分ノ一以上)

- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 工事ノ設計ヲ變更セムトスルトキ
 - 二 工場ノ着手又ハ竣工ノ期日ヲ變更セムトスルトキ
 - 三 工事ヲ中止シ又ハ之ヲ廢止セムトスルトキ
- 第六條 工事ノ現場ニハ設計書、工事日誌、豫算差引簿、材料購入簿其ノ他工事施行ノ爲必要ナル書類ヲ備ヘ監督者ヲ附スヘシ

- 第七條 工用材料ハ主務吏員ノ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ特ニ承認ヲ經タルモノハ此ノ限リニ在ラス
- 第八條 工事ニシテ施行後其ノ検査ヲ爲シ難キモノハ主務吏員ノ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ニ着手スルコトヲ得ス
- 第十條 補助金ノ假拂ヲ受ケムトスル者ハ別記様式第七號ニ依ル補助金假拂申請書ニ出來形調書ヲ添附シ知事ニ之ヲ提出スヘシ
- 第十一條 工事竣工シタルトキハ別記様式第八號ノ竣工届ニ別記様式第九號ノ經費決算書及設計書ニ準スル竣工調書ヲ添付シ知事ニ之ヲ提出スヘシ
- 第十二條 前條ノ届出アリタルトキハ竣工精算検査ヲ行ヒ其ノ補助金額ヲ決定通知ス
- 第十三條 通知ヲ受ケタル者ハ別記様式第十號ニ依リ直ニ請求書ヲ知事ニ提出スヘシ
- 第十四條 主務吏員ハ何時ニテモ工事ニ關スル收入支出ノ狀況及帳簿並圖書類ヲ検査シ若ハ之ニ關シ申請者ノ説明ヲ求ムルコトヲ得
- 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ補助金ヲ交付セス
 - 一 建築面積三十三平方メートル未滿ノ木炭倉庫

四 設備不適當ト認めラルル林道又ハ木炭倉庫
 五 一廉ノ工事費林道ニ在リテハ二千圓未滿木炭倉庫ニ在リテハ千圓未滿ノモノ
 六 工事費ノ精算額豫定金額ヲ超過セルトキハ其ノ超過金額
 七 用地費、支障物件移轉費、工事監督費及雜費又ハ實施設計書ニ記載セラルル費額
 八 竣功検査前ニ生シタル損害額
 九 工事請負人ヨリ寄附ヲ受ケタル場合ハ其ノ寄附ニ相當スル金額
 第十六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ林道又ハ木炭倉庫ノ維持修繕ヲ爲スノ義務ヲ有スルモノトス
 第十七條 補助金ノ交付ヲ受クル者ハ知事ノ承認ヲ受クルニ非サレハ其ノ林道又ハ木炭倉庫ノ用途ヲ變更シ廢止シ又ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
 第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ在リテハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ
 一 申請書又ハ其ノ關係書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
 二 工事ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキ
 三 指定ノ期間内ニ實施設計書ノ認可申請ヲ爲ササルトキ又ハ所定ノ期間内ニ工事ニ着手セズ若ハ工事竣功セサルトキ

- 四 認可ヲ得スシテ設計ヲ變更シタルトキ
- 五 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 六 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

附 則

第三條中前年度四月末日トアルハ昭和二年度ニ在リテハ七月昭和三年度ニ在リテハ九月末日迄トス

本令ハ公布日ヨリ之ヲ施行ス

様式第二號

木炭倉庫補助金下付申請書

一 工事施行箇所	郡	町大字	字	番地
二 工事着手完了期日	着手	年	月	日
三 構 造				
四 棟 數				
五 建 坪	平方メートル			
六 收 容 量	正味キログラム入俵			
七 利用區域内木炭年生産見込數量	キログラム價格			

林業共同施設補助規程抄

八 經 費
前記ノ豫定ヲ以テ昭和 年度ニ於テ木炭倉庫ノ新設(改修増築)致度候條相當補助金御下付相成度關係書類相添此段申請候也

年 月 日

郡 町

何々組合長 何

某印

知 事 宛

備 考

- 一 建坪ハ單位以下一位ニ止メ其ノ以下切捨ツヘシ
- 二 様式第一號ノ備考ヲ準用ス
- 三 倉庫敷地ヲ借入レタルトキハ其ノ契約書寫ヲ添付スヘシ

様式第四號

工事設計書
仕 様 大 要
内 譯

名稱	種類	工 寸 況 法	個 數	單 量	全 量	單 位	單 價	計 金	仕 工 法

備 考

- 一 名稱欄ニハ柱屋根板、土台基礎用等建築用材料人夫等ヲ記入スヘシ
- 二 種類ハ松杉人夫等ノ區分ヲ記入スヘシ
- 三 工法仕様ハ各部材料ニ付キ其ノ概要ヲ記入スヘシ

様式第八號

林 道 新設(改築、増築)竣功届
木炭倉庫

昭和 年 月 日

日附山第

(直營ノ場合)出來形調書並請負契約書寫(請負ノ場合)相添此ノ段御届候也

郡 町

何々組合長 何

某印

知 事 宛

様式第九號

經 費 決 算 書

- 一 經費豫算額
- 二 經費決算額

内 譯

一 直接工事費

林業共同施設補助規程抄

二 地代 (借地料又ハ何々)

三 監査費

四 備品費

五 雜費

六 何々

三 假拂金

一金

一金

圓 圓

年 年

月 月

日 日

受領 受領

濟 濟

圓 圓 圓 圓 圓

樣式第十號

林道(木炭倉庫)補助金請求書

但シ昭和 年 月 日 日附指令山第 號ニ對スル林道(木炭倉庫)

補助金

右請求候也

年 月 日

知事宛

郡 町

何々組合長 何

某

四 漁業共同施設獎勵規則抄

大正十四年六月二十六日農林省令第二十二號

第一條 農林大臣ハ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内

ニ於テ左ニ掲クル設備ニ對シ獎勵金ヲ交付ス

- 一 船揚及船溜設備
 - 二 水産物ノ販賣設備
 - 三 水産物ノ製造、加工及處理設備
 - 四 貯藏設備
 - 五 漁船及漁具設備
 - 六 水産物ノ運搬設備
 - 七 水産物ノ養殖設備
 - 八 漁船救難設備
- 第二條 獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル
- (自一至三略)
- 四 産業組合又ハ産業組合聯合會
- (以下略)

四 畜産共同施設獎勵規則抄

昭和七年七月八日農林省令第七號

第一條 農林大臣ハ牛乳、肉類、鶏卵及飼料ニ關スル共同施設ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ左ニ掲クル場合ニ於テ其ノ設備ヲ爲ス者ニ對シ其ノ費用ノ二分ノ一以內ヲ交付ス設備ノ改造又ハ擴張ニ付農林大臣特別ノ必要アリト認ムルトキ亦同シ

一 畜産組合、畜産組合聯合會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ牛乳ノ搾取、検査、淨化、冷却、殺菌若ハ加工又ハ牛乳若ハ乳製品ノ貯藏、包装若ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

二 畜産組合、畜産組合聯合會、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ肉類ノ解體、選別、冷却、若ハ加工又ハ肉類若ハ肉製造品ノ貯藏、包装若ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

三 農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ三十人以上ヲ以テ組織スル養鶏ニ關スル組合ニ於テ鶏卵ノ検査、選別、貯藏、包装又ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

四 畜産組合、畜産組合聯合會、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ飼料ノ生産、調製、貯藏其ノ他飼料ノ利用ニ關スル設備

ヲ爲ス場合

(自第二條至第九條略)

三 附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

乳肉卵共同處理獎勵規則ハ之ヲ廢止ス
乳肉卵共同處理獎勵規則ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルニ本令施行前乳肉卵共同處理獎勵規則ニ依リ爲シタル申請ハ本則ニ依リ之ヲ爲シタルモ其ト看做ス

五 養鶏獎勵規則抄

昭和二年三月三十日農林省令第五號

第一條 農林大臣ハ鶏ノ改良増殖ヲ圖リ鶏卵ノ増産ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ道府縣、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ノ左ニ掲クル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以內ヲ交付ス
一 養鶏ニ關スル專任技術員ノ設置ニ要スル費用
二 養鶏ニ關スル

三 養鶏ニ關スル共進會、競技會、講習會、講話會其ノ他養鶏智識ノ普及向上ニ關スル施設ニ要スル費用

三 鶏ノ飼養、孵卵、育雛、産卵能力檢定又ハ飼料ノ貯藏若ハ調製ニ要スル建物、工作物又ハ器具機械ノ設備ニ要スル費用

四 有畜農業獎勵規則抄

昭和六年七月六日農林省令第十六號

第一條 農林大臣ハ有畜農業ノ普及發達ヲ圖ル爲本則ニ依リ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ左ニ掲タル場合ニ於テ其ノ施設ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ別ニ國庫ヨリ獎勵金、補助金、又ハ助成金ノ交付ヲ受クベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ同前ノ獎勵金ハ又ハ補助金ニ對シテ亦同前ノ場合ニ依リ之ヲ交付ス

三 有畜農業ニ關スル共同ノ施設事業ヲ行フ組合又ハ産業組合ガ其ノ事業ニ關シ左ニ掲タル施設ヲ爲ス場合

一 家畜又ハ家禽ノ購入

二 家畜又ハ家禽ノ飼養管理ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置會社及共同

三 飼料作物又ハ芻草ノ改良増産ニ必要ナル土地ノ整備又ハ之ニ必要ナル工作物若ハ器具機械ノ設置

四 飼料ノ調製又ハ貯藏ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置

五 畜産物ノ處理加工ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置

六 畜力又ハ厩肥ノ利用ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置

五 畜産物販賣斡旋及受託販賣獎勵規則抄

第一條 農林大臣ハ畜産物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ畜産組合聯合會若ハ之ニ準スヘキ畜産組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル組合畜産物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ於テ左ニ掲タル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ交付ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ此ノ割合ヲ超テ之ヲ交付スルベキトアルヘシ

有畜農業獎勵規則抄 畜産物販賣斡旋及受託販賣獎勵規則抄

二 事業ニ従事スル専任職員ノ俸給及旅費
 三 事業ニ要スル事務費
 前項ノ規定ハ道府縣農會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人畜産物ノ販賣斡旋ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ之ヲ準用スル旨ハ農林大臣ノ令ニ依リテ之ヲ定ムル事
 四 製絲業共同施設獎勵規則抄 昭和七年九月二十四日農林省令第二十四號

第一條 農林大臣ハ製絲業法第一條ニ規定スル製絲業者ノ共同施設ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スル事ヲ定ム
 第二條 獎勵金ハ前條ノ製絲業者ガ共同施設ヲ爲ス目的ヲ以テ組織スル法人又ハ組合ノ施設スル器械生絲ノ揚返、束裝、荷造、検査又ハ販賣ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス

五〇 共同繭倉庫及共同乾繭裝置助成規則

第一條 農林大臣ハ乾繭取引ノ發達並繭ノ乾燥及保管ノ改善ヲ圖ル爲メ共同繭倉庫及共同

大正十四年四月二十三日農林省令第五號
 改正同十五年九月一日農林省令第二十一號

乾繭裝置ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スル事ヲ定ム
 第二條 助成金ノ交付ヲ受ケタルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ其ニ該當スル者ニ限リテ之ヲ要ス但シ共同繭倉庫ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタルコトヲ得ヘキ者ハ第一號ニ該當スルモノニシテ農業倉庫業法第六條ノ認可ヲ受ケタル者及第二號ニ該當スル者ニ限リテ之ヲ要ス
 六 産業組合、産業組合聯合會、農會、蠶業ノ發達ヲ目的トスル公益法人又ハ市町村若ハ之ニ準スヘキモノ

二 株式會社但シ其ノ株式及議決權ノ十分ノ八以上ヲ養蠶業者ニ屬スル者ニ限リテ之ヲ要ス
 三 主トシテ養蠶業者ヲ以テ組織スル同業組合若ハ道府縣ノ規程ニ依リ認可シテ之ヲ要ス
 六 蠶組合又ハ其ノ聯合會
 第三條 共同繭倉庫ニ對スル助成金ハ農林大臣ノ適當ト認ムル規模及構造ヲ具備スル倉庫ノ新築、増築又ハ改築ニ要スル費用ニ對シ其ノ十分ノ四以内ヲ交付ス
 第四條 共同乾繭裝置ニ對スル助成金ハ農林大臣ノ適當ト認ムル規模及構造ヲ具備スル乾繭設備之ニ附屬スル繭ノ取扱場ノ新設、増設若ハ改造又ハ特別ノ理由アル場合ニ於テハ其ノ買入ニ要スル費用ニ對シ其ノ十分ノ四以内ヲ交付ス

第五條 助成金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ三月三十一日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ但シ申請者カ助成金交付ノ許可ヲ受ケタルコトヲ受ケタル場合ニ於

外前提出シタル添附書類に記載事項ニ變更ナキモノアルトキハ其ノ旨ヲ明シ以該書類ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第一號様式ニ依ル事業計畫書十卷、四以内ヲ交付ス

第二號様式ニ依ル設備要領書十卷、四以内ヲ交付ス

第三號様式ニ依ル費用豫算書十卷、四以内ヲ交付ス

第四號業務規程ノ添付ニ要スル費用ニ據リ其ノ十分ノ四以内ヲ交付ス

第五號市町村及之ニ準スヘキ者以外ノモノニ在リテハ其ノ定款、寄附行為、會則又ハ規約

第六號産業組合ニ在リテハ職業別組合員ノ數及其ノ出資口數ヲ記載シタル書類

第七號産業組合聯合會ニ在リテハ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ定款、議入取扱ニ關スル業務規程其ノ他業務施行ニ關スル規程及其ノ産業組合聯合會ニ對スル出資口數ヲ記載シタル書類

第八號株式會社ニ在リテハ職業別株主及其ノ所有株式ノ數ヲ記載シタル書類又ハ市町村若シテニ養蠶組合ニ在リテハ其ノ組合員、其ノ聯合會ニ在リテハ組織組合及各組織組合ノ組合員ノ數ヲ記載シタル書類

第九號申請者或ハ養蠶組合又ハ其ノ聯合會ナルトキハ代表者ヲ定メ其ノ代表者ヨリ助成金交付ノ申請ヲ爲スヘシ其ノ場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ證明スル書類ヲ添付スルコトヲ

要スル書類

助成金交付ノ申請ヲ爲シタル者第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルモノハ其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

第六條 業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ前倉庫ノ事業ヲ爲ササル者ハ業務規程ニテ

一 第二號乃至第十一號、乾繭ノ事業ヲ爲ササル者ノ業務規程ニアリテハ第十三號

二 第十四號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

三 事業ノ種類

四 第十五條第二項ノ規定ニ依ル保管前一荷口ノ最少數量

五 第十五條第三項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨及保管スヘキ物品ノ

六 第十五條第三項ノ規定ニ依リ保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタルトキハ其ノ

七 順位並同條第一項ノ規定ニ依ル保管物ノ保管上必要ナルトキ及第二十條ノ規定ニ依リ

八 保管ニ制限ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ第十五條第三項ノ規定ニ依ル保管物ノ出庫ヲ

九 ナサシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位

十 保管ノ方法及保管上特殊ノ作業ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ作業

十一 混合保管ヲ爲スモノニアリテハ其ノ範圍及受寄物返還ニ關スル規定

- 七 保管料ニ關スル規定
- 八 保管期間ニ關スル規定
- 九 証券發行ニ關スル規定
- 十 保險ニ關スル規定
- 十一 倉庫ヘカラスル事由ニ依ル減量ノ負擔ニ關スル規定
- 十二 入庫料、出庫料、乾燥料其ノ他ノ手数料ニ關スル規定
- 十三 第十六條第二項ノ規定ニ依リ乾燥ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨
- 十四 乾燥ノ順位及乾燥ノ方法
- 十五 受寄物又ハ受託物ノ検査又ハ格付ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
- 十六 受寄物又ハ受託物ノ調製、改装若ハ荷造又ハ其ノ運送若ハ販賣ノ仲立若ハ取次ヲ爲シ又ハ受寄物若ハ其倉庫証券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
- 十七 共同寄託者又ハ共同委託者ノ委託ニ依リ受託物若ハ寄託物又ハ其ノ賣却代金ニ對シテ各寄託者又ハ委託者ノ有スル權利ノ割當ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
- 第十七條 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事ヲ完成シ若ハ物件ノ買入ヲ了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ

- 第八條 助成金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事又ハ買入物件ニ付農林大臣ノ指定シタル者検査ヲ受クヘシ
- 第九條 助成金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル者工事ノ仕様ニ重要ナル變更ヲ加ヘ又ハ買入物件ノ變更ヲ爲サルトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 農林大臣ハ前項ノ認可ヲ爲スニ際シ助成金ノ額ヲ變更スルコトアルヘシ
- 第十條 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者助成金ノ交付ヲ請求セザルニ付其キハ工事完成又ハ物件買入終了後費用精算書ヲ添テ請求書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ
- 農林大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス工事完成又ハ物件買入終了前ニ於テ助成金ノ交付ヲ爲スコトアルヘシ
- 第十二條 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者其ノ事業又ハ物件ヲ第二條ニ規定スル資格ヲ具備スル者ニ讓渡セムトスルキハ第四號様式ニ依ル願書ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者解散シタルトキハ許可ノ效力ヲ失フ但シ合併後存続シ又ハ合併ニ因リ設立シタル法人カ第二條ニ規定スル資格ヲ具備スル場合ニ於テ事業ノ承繼ニ付農林大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ解散シタル法人ト同一ノ事業ヲ行フ法人カ第二條ニ規定スル資格ヲ具備スル場合ニ於テ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル

第十八條 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル株式会社ハ利益金ノ處分ニ付農林大臣ノ認可ヲ受
 第廿九條 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ事業月報、毎期收支計算書及毎期事業報告書
 農林大臣ニ差出スベシ
 第二十條 農林大臣必要ト認メタルキハ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニモ
 業務規程ノ變更ヲ命シ第十五條第三項又ハ第十六條第三項ノ規定ニ依ル保管又ハ乾燥ニ
 付制限ヲ爲シ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務執行若ハ財産ノ狀況
 ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
 第二十一條 助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ農林大臣ハ助
 成金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコト
 一 本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分若ハ助成金交付ノ條件ニ違反シタル者トキ
 二 同第二條ニ規定スル資格ヲ失フニ至リタルトキ
 三 同詐欺ノ手段ヲ以テ助成金交付ノ許可ヲ受ケ又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタルトキ
 第二十二條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
 地方長官第五條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ニ意見書ヲ添テ農林大臣ニ進達スヘシ

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル助成金ノ交付セズニ付
 一 農業倉庫獎勵規則ニ依リ補助金ノ交付ヲ受クルトキ
 二 農業倉庫獎勵規則ニ依リ補助金ノ交付ヲ受クル道府縣ノ補助金ノ交付ヲ受クルトキ
 第二十四條 農林大臣必要ト認ムルトキハ第三條乃至第五條ノ規定ニ拘ラス共同貯倉庫及
 共同乾燥装置ニ對シ助成金ヲ交付スルコトアルヘシ
 附 則
 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第五條中一月末日迄トアルハ大正十四年度ニ限リ八月末日迄トス

五 副業獎勵規程

昭和三年九月縣令第六十五號

第一條 副業ノ普及發達ヲ圖ル爲メ本規程ニヨリ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付
 第二條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ獎勵金ヲ受クルコトヲ得

二 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ獎勵金ノ交付スルコトヲ得
 三 市町村又ハ町村組合
 四 町村農會、市農會又ハ郡農會
 五 前各號ノ外知事ニ於テ適當ト認メタルモノ
 第三條 獎勵金ハ左ニ掲クル事業及施設ニ對シ之ヲ交付ス
 一 副業知識ノ普及發達ニ關スル事業(傳習會、練習會、練習生ノ派遣)
 二 副業品生産改善ニ關スル事業(展覽會、共進會、競技會、研究、調査、試驗、意匠ノ考案)
 三 副業ニ關スル共同事業(副業原料ノ購入、副業品ノ出陳、販賣斡旋)
 四 副業ニ關スル共同施設(器具機械ノ購入、作業場倉庫又ハ販賣所ノ建設)
 五 其ノ他副業獎勵上必要ト認ムル事業又ハ施設
 第四條 獎勵金ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ交付ス
 一 前條第一號乃至第三號ニ依リテハ事業費ノ三分ノ一以内
 二 前條第四號ニ依リテハ施設費ノ二分ノ一以内
 三 前條第五號ニ依リテハ前各號ニ準ス
 特別ノ事由アル場合ハ前項各號ノ額ヲ超ヤテ獎勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ申請書(第一號様式)ニ左ノ書類ヲ添付シ三月末日迄ニ知事ニ提出スヘシ
 一 事業計畫書
 二 收支豫算書
 三 事業實施ニ關スル規程
 四 建設物ニアリテハ設計書及圖面
 第六條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタルモノ、前條各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ承認ヲ受クヘシ
 第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタルモノハ收支決算及事業成績報告書(第二號様式)ヲ翌年四月末日迄ニ知事ニ提出スヘシ
 第八條 第三條第四號ニ該當スル獎勵金ヲ受ケタルモノハ知事ノ承認ヲ受クルニ非サレハ獎勵金受領ノ日ヨリ五ケ年間其ノ設備ヲ變更又ハ讓渡スルコトヲ得ス
 第九條 知事必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類帳簿又ハ事業執行ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトアルヘシ
 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ獎勵金下付ノ指令ヲ取消シ又ハ獎勵金ノ全部若ハ

事業	項	記	事
事業施行ノ状況			
成績ノ概要			

五三 農山漁村共同作業場補助規程

昭和七年十一月三十日縣令第七十一號

- 第一條 農山漁村經濟ノ更生ヲ圖ル目的ヲ以テ爲ス農業者、林業者又ハ漁業者ノ共同作業場ノ設置ヲ獎勵スル爲本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス
- 第二條 補助金ハ町村、農會、産業組合、農家組合其他知事ノ適當ト認ムル團體ノ左ニ掲クル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ別ニ國庫又ハ縣ヨリ獎勵金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニアラス
- 一 農山漁村經濟ノ更生ヲ圖ル目的ヲ以テ農業者、林業者又ハ漁業者ノ共同作業ニ供用スル建物ノ新設又ハ増設ニ要スル費用
- 二 前號ノ建物ニ附屬スル工作物又ハ器具機械ノ新設又ハ増設ニ要スル費用

前項各號ノ施設ハ町村又ハ部落内ノ各種産業施設ニ綜合的ニ利用セシムルモノナルコトヲ要ス

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書(様式第一號)ニ左ニ掲クル書類ヲ添付シ毎年一月十五日迄知事ニ之ヲ提出ス

一 事業計畫書(様式第二號)

二 收支豫算書

三 工事設計書 (様式第三號)

四 前項ノ書類ノ外知事ヘ必要ト認ムル書類ハ提出ヲ命ズルモノナルヘシ

五 前項ノ書類ハ岡山縣農山漁村經濟更生委員會ノ審議ヲ經知事ニ於テ適當ト認メテ州モ

第四條 補助金ハ岡山縣農山漁村經濟更生委員會ノ審議ヲ經知事ニ於テ適當ト認メテ州モ

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者前條但書ノ實查終了前ニ於テ第三條ノ書類ニ記載シテ

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ施設ヲ完了シタルトキハ直ニ様式第四號ニ依リ知

第七條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ施設ヲ完了シタルトキハ直ニ様式第四號ニ依リ知

第八條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ施設ヲ完了シタルトキハ直ニ様式第四號ニ依リ知

第九條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ施設ヲ完了シタルトキハ直ニ様式第四號ニ依リ知

第十條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者其ノ施設ヲ完了シタルトキハ直ニ様式第四號ニ依リ知

第七條 補助金の交付ヲ受ケタル者ハ其ノ施設完了ノトキヨリ三年間毎年度ノ事業成績書
 (様式第五號)ヲ各其ノ年度經過後二月内ニ知事ニ提出スベシ
 第八條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ施設完了ノ日ヨリ五年間知事ノ認可ヲ得ルニ非サレ
 ば當該施設ヲ變更シ、廢止シ、譲渡シ又ハ其ノ用途ヲ變更シ若ハ六月以上其ノ利用ヲ休
 止スルコトヲ得ズ

第九條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ施設完了ノ日ヨリ五年以内ニ施設撤去シ又ハ使用ス
 ルコト能ハサルニ至リタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

第十條 知事必要アリト認めタルトキハ補助金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ事業ニ關スル報告
 ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ事業施行ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコ
 トヲ得

第十一條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ知事ハ補助金
 ノ交付ヲ取消シ又ハ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一 本令ニ違反シ又ハ本令ニ依ル處分ニ從ハサルトキ
 二 補助金ノ條件ニ違反シタルトキ
 三 事業施行ノ方法不適當ト認めタルトキ

第十二條 本令ニ依リ農家組合其他ノ団体ヨリ知事ニ提出スベキ書類ハ總テ其ノ主たる事

務所々在地ノ市町村長ヲ經由スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中一月十五日迄トアルハ昭和七年度ニ限り昭和七年十二月十五日迄トス
 昭和七年度ノ補助金ニアリテハ第四條ノ規定ニ依ル岡山縣農山漁村經濟更生委員會ノ審議
 ヲ經サルモノニ付テモ之ヲ交付スルコトアルヘシ

様式第一號 農山漁村共同作業場補助金交付申請書

農山漁村共同作業場補助規程ニ依リ何年度ニ於テ補助金御交付相成度別紙關係書類相添ヘ此段申請候也

() 年 月 日

郡 氏 町長 氏 名印

住 新 (事務所々在地)

園 林 名

氏 名印

岡山縣知事 殿

様式第二號 事業計畫書

- 一 施設ノ種類
- 二 共同作業場ノ位置(附近ノ略圖添付ヲ要ス)
- 三 施設ノ目的及用途
- 四 施設着手及完了豫定期日
 - 着手 年 月 日
 - 完了 年 月 日
- 五 施設ノ要領
 - (一) 概要
 - (二) 明細
- 六 建築ノ要領及工事費何程
 - 梁行 何メートル
 - 桁行 何メートル
 - 建坪何程 工事費何程
 - 工 作物(種類別毎ニ)
 - 器具機械(種類別毎ニ)
 - 本令(三)施行方法
- 七 注意 既設ノ建物又ハ工作物及器具機械アル場合ニ於テハ(二)ノ事項ノ外建築又ハ購入年月日ヲ加ヘ之ヲ
- 八 既設施設(下)ニ記載スヘシ

- 六 施設ノ種類別費用
 - 費目 金額 説明
- 七 施設費用ノ調達方法
- 八 施設ヲ必要トスル事由
- 九 施設利用ノ方法
 - 施設一ケ年間ノ利用見込
 - 作業種別 取扱品名 取扱数量 取扱金額 利用日数
 - 利用員数 団体職員数ニ對スル利用員数ノ割合
 - 注意 既設施設ニ依ル利用ノアル場合ニ於テハ前事項ニ準シ之ヲ別記スベシ
- 二 団体区域内ノ各種事情
 - (一) 業態別戸数並人口
 - (二) 耕地及林野別面積
 - (三) 主要生産物ノ産額(最近三箇年間ノ種類別ニ)並其ノ主ナル仕向地名
 - (四) 共同作業ノ種類別戸数
- 注意 (一)(二)(三)ノ事實ニ付テハ調査年月日ヲ附記スベシ

様式第三號

仕	工	設	計	書	金	工	出
様	事	計	算	簿	工	出	金
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
大	大	大	大	大	大	大	大
要	要	要	要	要	要	要	要

- 五 施設一ケ年間ノ利用數(様式第二號事業計畫書中ノ一〇ニ準シ記載スヘシ)
- 六 施設利用ノ効果概要
- 七 施設利用ニ依ル收支及損益

五三 副業用器具機械貸付規程

昭和二年十二月二十六日縣令第七十五號

- 第一條 知事ハ副業助成ノ爲本規程ノ定ムル所ニ依リ市、町村、農會、産業組合及副業組合ニ對シ副業用器具機械ヲ貸付ス
- 第二條 器具機械ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ借受申請書(様式第一號)ニ事業計畫書ヲ添ヘ知事ニ提出スヘシ
- 第三條 貸付承認ノ指令ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク借受證書(様式第二號)ヲ提出シ物件ノ交付ヲ受ケヘシ
- 第四條 本規程ニ依リ貸付スヘキ物件ニ對シテハ使用料ヲ徴收セス但シ借受又ハ返還ノ爲ニ要スル費用ハ借受人ノ負担トス
- 第五條 借受人ハ借受ノ目的以外ニ之ヲ利用シ若ハ他ニ轉貸スルコトヲ得ス
- 第六條 借受期間中ハ借受人ニ於テ保管ノ責ニ任シ借受物件ノ毀損又ハ紛失シタルトキハ之カ修費又ハ賠償ヲナスヘシ

第七條 貸付期間滿了後ト雖物件ノ引渡ヲ完了スル迄ハ借受人ニ於テ保管ノ責アルモノトス

第八條 借受人ハ貸付期間滿了後直ニ使用成績(様式第三號)ヲ知事ニ報告スヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ貸付ノ指令ヲ取消シ又ハ物件ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 本規定ニ違反シタルトキ
- 二 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 三 知事ニ於テ必要ト認メタルトキ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一號様式 副業用器具機械借受申請書
- 一、借受器具機械ノ名稱
- 二、借受期間
- 三、使用場所

貴縣副業用器具機械貸付規程遵守可致ニ付右御貸付被下度別紙關係書類添付此段申請候也

副業用器具 械貸付規程
年 月 日
二五二

市町村長 氏 名
 何 氏 名
 何 氏 名

第二條 附屬品共左記仕書ノ通

一、但、附屬品共左記仕書ノ通
 本規則ハ、
 具機械貸付規程ヲ遵守可致ハ勿論其他御指示ノ通取扱可申爲後日証書差出申候

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

令般借受仕候何々(器具機名)ノ使用成績左記報告候也

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

市町村長 氏 名
 何 氏 名

會、市農會、町村農會其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ左ニ掲タル費用ニ對シ之ヲ交付ス

- 一 全國購買組合聯合會ノ役員又ハ職員ニシテ專ラ肥料配給ノ業務ヲ擔當スルモノノ設置ニ要スル費用
- 二 全國購買組合聯合會ノ肥料配給所又ハ其ノ所屬設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要スル費用
- 三 道府縣購買組合聯合會ノ職員ニシテ專ラ肥料配給ノ業務ヲ擔當スルモノノ設置ニ要スル費用
- 四 購買組合、郡農會、市農會、町村農會其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ肥料配給ニ必要ナル器具機械ノ設置ニ要スル費用

第三條 助成金ノ額ハ前條ノ費用ノ二分ノ一以內トス但シ前條第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ額ハ一箇所分千圓ヲ超エサルモノトス

第四條 助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 事業計畫書
- 二 第二條ノ費用ノ豫算書

第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ書類ノ外設備ノ要領書ヲ添附スヘシ

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條第一項各號又ハ同條第二項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 第二條第一號又ハ第三號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ費用ノ精算書ヲ翌年度四月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第七條 第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者助成金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ第二條第二號ノ設備ニ在リテハ工事ノ全部若ハ一部ノ終了後又ハ物件買入終了後、第二條第四號ノ設備ニ在リテハ設置完成後費用ノ精算書ヲ添附シ請求書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第八條 第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ第四條第一項第一號ノ事業計畫書ニ記載シタル目的及用途ニ從ヒ設備ヲ使用スルコトヲ要ス

特別ノ事由ニ因リ前項ノ目的又ハ用途ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クヘシ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ設備ヲ廢棄シ若ハ讓渡セントスルトキ亦同シ

第九條 第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ設備滅失シ

又ハ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツベシ

第十條 助成金ノ交付ヲ受ケタル全國購買組合聯合會又ハ道府縣購買組合聯合會ハ毎月ノ肥料配給ニ關スル事業ノ狀況ヲ翌月十五日迄ニ農林大臣ニ報告スベシ

第十一條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業年度經過後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分書（産業組合及産業組合聯合會以外ノ團體ニ在リテハ收支決算書及事業報告書）ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第十二條 農林大臣又ハ地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニテモ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ事業施行者ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケ設置シ又ハ買入レタル設備ノ承継人ハ第八條、第九條、第十一條、前條及第十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ助成金ノ交付ヲ受ケタル者ト看做ス

第十四條 第八條、第九條、第十一條及第十二條ノ規定ニ依ル義務ノ存續期間ハ第二條第二號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ助成金交付ノ日ヨリ十年間、第二條第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ助成金交付ノ日ヨリ三年間トス

第十五條 全國購買組合聯合會ヨリ提出スヘキ書類ヲ除クノ外本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

第十六條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ助成金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルベシ

一 本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ

二 助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 事業施行ノ方法不適當ト認メテ還付ノ命ヲ付スルトキ

四 支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附則

本令ハ公布シヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ昭和五年度ニ限り九月三十日迄トス

第五條 家畜市場法施行規則抄

第十一條 家畜市場法第八條ノ規定ニ依ル常設家畜市場ノ區域内ニ於テ開設スルコトヲ得

明治四十三年十一月農商務省令第二六號
改正大正九年第二十三號

自作農創設維持補助規則抄

大正十五年五月農林省令第十號

- 第一條 農林大臣ハ自作田畑ノ創設又ハ維持ヲ行フ爲メ左ニ掲クル資金ヲ借入レ其ノ貸付ヲ行フ道府縣ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村、産業組合及之ニ準スヘキ者ニ對シ之ヲ交付スルコトアルヘシ
- 一 簡易生命保險積立金
- 二 償還方法貸付利率其ノ他貸付條件カ前號ノ資金ニ類似スル資金ニシテ農林大臣ノ適宜ト認メ所存マシテ出スヘキ
- 第二條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ前條ノ資金ヲ貸付ヲ受ケ左ノ事項ヲ行フ者ヲ負擔ス
 - 一 輕減タル爲メ使用スルコトヲ要スル者ハ聯合ニ屬ス
 - 二 自作田畑ノ爲メ土地ノ購入イハ耕作ノ爲メ農具ノ購入、農業聯合、産業聯合、農林大臣ニ於テ適宜ト認ムル自作田畑ノ維持（自作田畑トシテ土地ヲ購入シタルニ因リ生シタル其ノ土地ノ抵當債務ノ借替）
- 第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ三月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ
 - 一 事業計畫書

昭和三年十一月八日農林省令第一〇號
昭和十二年十二月二十六日農林省令第二十二號

二 事業ニ關スル收支豫算書

三 貸付ニ關スル規程

四 様式第一號ニ依リ借入調書

五 地方自治團體ハ在リテ起債決議書及組合規約ヲ附シ其ノ規約ハ原本、産業組合及産業組合聯合會ニ在リテ決定款、借入額最高限度決議書、原本、最近年度事業報告書、財産目録及貸借對照表ニ附加シ、年總算ヲ附シテ提出スヘシ

起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スル者ニ在リテ提出許可書ハ原本ヲ添附スヘシ但シ許可申請中ニ在リテハ在リテハ許可セラザル者トシ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

穀物検査規則抄

大正十三年六月九日農林省令第五十號
改正昭和四年九月二十日縣令第七十二號

第三條 検査ハ生産検査、移出検査ノ二種トス

生産検査ハ縣内ニ於テ受渡スル穀物ニ就キ現品所在地ニ於テ之ヲ行フ行政組合ノ定款移出検査ハ縣外ニ移出スル穀物ニ就キ穀物移出検査員在勤地附近ニ於テ之ヲ行フ但シ縣内ニ於テ受渡スルモノト雖左ノ各號第一號該當スル運出ノ希望ニ依リ現品所在地ニ於テ之ヲ行フ得

自作農創設維持補助規則抄 穀物検査規則抄

- 一 農業倉庫業法ニ依リ設立セル農業倉庫ニ入庫スル俵數二十五俵以上ノモノ
- 二 取引ノ爲縣内ニテ運搬シ又ハ倉庫ニ入庫スル俵數五十俵以上ノモノ
- 三 産業組合、農會、市町村ノ斡旋ニ依リ共同販賣ヲ爲ス俵數百俵以上ノモノ

六一 穀物検査手数料規則

大正七年三月十七日縣令第十三號
第四次改正大正十五年六月縣令第八十六號

第一條 穀物検査規則ニ依リ穀物ノ移出検査ヲ受ケムトスル者ハ一俵ニ付米ニ在リテハ五錢麥ニ在リテハ參錢ノ手数料ヲ納付スヘシ但シ穀物検査規則第十七條第一項第十九條第二號乃至第四號ニ該當スルモノノ再検査ニ付テハ之ヲ免除ス

穀物検査規則第三條第一號及第三號ニ該當スル穀物ノ移出検査ヲ受ケムトスル者ハ一俵ニ付米ニ在リテハ參錢麥ニ在リテハ貳錢ノ手数料ヲ納付スヘシ

穀物検査規則第十六條第二項ニ該當ノモノノ既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

穀物検査規則第十八條第一項ニ依リ再審査検査ヲ受クル者ハ一俵ニ付米ニ在リテハ五錢麥ニ在リテハ參錢ノ手数料ヲ納付スヘシ

六二 畜産組合又ハ産業組合ノ牛乳搾取販賣ニ

關スル取締規則

昭和六年二月岡山縣令第八號

第一條 畜産組合又ハ産業組合（以下單ニ組合ト稱ス）ニシテ三頭以下ノ乳牛ヲ飼養スル組合員ノ爲ニ牛乳搾取販賣ヲ組合施設トシテ營マムトスルトキハ本則ニ依リ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ牛乳營業取締規則ノ適用ニ就テハ之ヲ營業者ト看做ス但シ之カ取締ハ大正十年九月三十日縣令第八十三號牛乳營業取締規則施行細則ノ規定ニ拘ラス本則ニ依リ之ヲ行フ

第三條 第一條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケムトスル者ハ左記ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

第三號乃至第九號ノ事項ニ關シテハ知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

- 一 組合ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ住所、職業、氏名、生年月日並組合ノ定款
- 二 乳牛ヲ飼養スル組合員ノ住所、職業、氏名、生年月日
- 三 組合員ノ乳牛飼養頭數及牛舎ノ構造設備ニ關スル明細圖書
- 四 搾乳室及牛乳處理場ノ位置、構造及設備ニ關スル明細圖書

穀物検査手数料規則 畜産組合又ハ産業組合ノ牛乳搾取販賣ニ關スル取締規則 二六三

牛ニ對シ健康診斷ヲ施行セシムル事アルヲルヘシ
 第九條 組合員ノ從業者又ハ組合員ヲシテ牛乳ヲ搾取若ハ取扱フ爲メトシテ疾病ヲ患フ者其ノ住所氏名生年月日ヲ具シ牛乳營業取締規則第十二條ニ揭ケテ疾病ヲ持テ醫
 師ノ診斷書ヲ添テ所轄警察署長ニ之ヲ届出ツヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキ亦同シ牛乳營業
 知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ從業者又ハ組合員ニ對シ醫師ヲシテ健康診斷
 書ヲ爲ナシテ又ハ其ノ指定セル醫師ノ健康證明書ヲ提出セシムル事アルヲルヘシ
 第十條 組合員左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 搾乳ノ時ハ其ノ比重、脂肪及酸度ヲ試驗シ之ヲ記錄シ置クベシ
- 二 搾乳室以外ノ場所ニ於テ搾乳ヲ爲サシメタルコト
- 三 搾乳ノ際ハ適當ナル乳房洗滌器ヲ用テ微温湯ヲ以テ之ヲ洗滌シ且後清潔ナル布片
 六ヲ以テ拭淨セシムル事アルヲルヘシ
- 四 牛乳ノ搾取又ハ取扱ニ從事スル者ヲシテ就業前手指ヲ清洗セシメ作業中ハ清潔ナル
 五 白布及白帽ヲ着用セシムル事アルヲルヘシ
- 五 牛乳處理場以外ノ場所ニ於テ牛乳ノ濾過又ハ詰替ヲ爲サシメタルコト
- 六 牛乳ニ接觸スル器具類ハ使用ノ都度之ヲ洗滌シ且熱湯汁ニ浸シタル後硬ニ淨水
 三以テ洗滌セシムル事アルヲルヘシ

七 配付スヘキ牛乳ノ消毒ハ配付用ノ容器ニ納メタル儘行フコト
 八 牛乳ヲ配付スル容器ニハ細則第二十條第二項規定ノ事項ヲ標記スルコト
 九 牛乳搾取又ハ取扱ニ使用スル器具類ハ之ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシメサルコト

第十條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ十日以内ニ之ヲ知事ニ届出ツヘシ
 一 業務ヲ開始シ又ハ廢止シタルトキ
 二 一月以上上林業セムトスルコト

第十一條 組合員ハ細則第九條ニ準シ牛籍簿ヲ備ヘ組合員ノ住所、氏名並飼養乳牛ノ種類
 及頭數ヲ明記シ且所轄警察署長ニ届出ツヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
 第十二條 組合員ハ日誌ヲ備ヘ毎日取扱ヒタル乳牛ノ頭數及搾乳量等ヲ記載スヘシ
 第十三條 組合員ハ細則第十條ニ準シ前月分ノ牛乳搾取高及販賣高ヲ毎月十日迄ニ所轄警察
 署長ニ之ヲ届出ツヘシ

第十四條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ十日以内ニ之ヲ知事ニ届出ツヘシ
 一 業務ヲ開始シ又ハ廢止シタルトキ
 二 一月以上上林業セムトスルコト
 三 組合解散シタルトキ
 四 第三條第一號、第二號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ
 五 前項第三號ノ場合ニ在リテハ清算人ヨリ其ノ届出ヲ爲スヘシ

畜産組合又ハ産業組合ノ牛乳搾取販賣ニ關スル取締規則
 二六七

第十五條 本則ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第十六條 本則ニ於テ所轄警察署ト稱スルハ組合事務所在地ヲ管轄スル警察署ヲ謂フ

第十七條 第一條、第七條、第八條第一項第二項、第九條第一項、第十條乃至第十四條ノ規定ニ違反シ若シ認可ヲ受ケスシテ第三條第三號乃至第九號ノ事項ヲ變更シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條 細則第五條及第十三條第三項ノ規定ハ本則ニ之ヲ準用スルニ出ス

會計規則抄

第三十條 會計規則抄 大正十一年一月勅令第一號 十月三十日 所轄警察署

第三十一條 會計規則抄 第七章 第四節 隨意契約

第三十二條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十三條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十四條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十五條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十六條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十七條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十八條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第三十九條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

第四十條 會計規則抄 第三十一條第二項ノ規定ニ依リ以テ外左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約

製絲業法抄

第一條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第四條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第六條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第七條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第八條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第九條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十一條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十二條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十三條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十四條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十五條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十六條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十七條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十八條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第十九條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二十條 本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除ク外器械生絲製造ヲ業トスル者ヲ謂フ

若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限シ
若ハ停止スルコトヲ得

第六條 主務大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキハ製絲業者ニ對シ事業ニ關ス
ル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢
シ若ハ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スベシニシテ其
第七條 第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
二 第四條第二項ノ規定ニ依ル制限又ハ第五條ノ規定ニ依ル制限者ヲ停止スル處分ニ違反
シタル者
三 正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル臨檢検査ヲ拒否シ妨者若シモ懲罰シ又ハ尋問
ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第九條 製絲業者正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠ル者ハ千圓以
下ノ罰金ニ處ス

第十條 製絲業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者カ本法又ハ本

法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テ其ノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ
免ルルコトヲ得

第十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ製絲業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者カ
法人トキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治
産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス
ル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在リテ其ノ親族ニ對シテ懲罰ヲ受マラズ

(第十二條以下略)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ製絲業者タル者又ハ其ノ承継人ハ命令ニ定ムル所ニ依リ本法施行ノ期日ヨ
リ之ヲ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

第六節 製絲業法施行規則抄
第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ製絲業法第一條第一項ノ製絲業者ヨリ之ヲ除外ス
一 利用組合ノ有スル器械生絲ノ製造工場(製絲工場)ヲ利用シテノミ生絲ノ製造ヲ業ト

スル者ハ製絲業法第二條ノ規定ニ依リ製絲工場ニ於テ生絲ヲ製造スル者ハ製絲業者トシテ之ヲ認メ

第二條 製造業法第二條ノ規定ニ依リ製絲工場毎ニ之ヲ爲スモノトシテ生絲ヲ製造スル者ハ製絲業者トシテ之ヲ認メ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ヲ爲ナス

一 揚返又ハ束装以後ノ工程ノミヲ行フ場合ヲ除クノ外製絲工場ニ百五十釜以上ノ繰絲機ヲ備ヘタル者

二 免許申請者カ製絲業ノ免許ヲ取消スル又ハ事業ノ制限ヲ受ケタ後十年ヲ經過セザル者

三 免許申請者カ製絲業法第五條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ受ケ事業休止中ノ者ナルト

四 未免許申請者カ製絲業法第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過スル者

五 前各號ノ外農林大臣ニ於テ不適當ト認ム所キハ外員ニシテ未免許者又ハ前項第一號ノ規定ニ依リ自家用生絲ヲ製造スル者トシテ行フ製絲工場ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條 製絲業ノ免許申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 事業計畫書

二 設備要領書

三 免許ヲ受ケントスル者法人ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財産目録及貸借対照表

四 二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ事業ニ關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタル書類

五 製絲業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ大要ヲ記載シタル書類

二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ内一人ヲ代表者ト定メ其ノ氏名又ハ名稱ヲ免許申請書ニ記載スヘシ

第五條 繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ノ事業計畫書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 製絲工場ノ所在場所

二 揚返又ハ束装以後ノ工程ヲ行ハサル場合ニ於テハ之ヲ行フ製絲工場ノ名稱及所在場所

三 一年間ノ原料消費見込數量

四 一年間ノ目的繰度別生絲製造見込數量

- 五 従業員ノ種類及員數主其算段員及員數
- 六 起業費ノ收支概算費員及員數
- 七 事業ノ收支概算
- 八 事業開始ノ豫定年月日
- 九 事業開始ノ豫定年月日
- 十 事業開始ノ豫定年月日
- 十一 事業開始ノ豫定年月日
- 十二 事業開始ノ豫定年月日
- 十三 事業開始ノ豫定年月日
- 十四 事業開始ノ豫定年月日
- 十五 事業開始ノ豫定年月日
- 十六 事業開始ノ豫定年月日
- 十七 事業開始ノ豫定年月日
- 十八 事業開始ノ豫定年月日
- 十九 事業開始ノ豫定年月日
- 二十 事業開始ノ豫定年月日
- 二十一 事業開始ノ豫定年月日
- 二十二 事業開始ノ豫定年月日
- 二十三 事業開始ノ豫定年月日
- 二十四 事業開始ノ豫定年月日
- 二十五 事業開始ノ豫定年月日
- 二十六 事業開始ノ豫定年月日
- 二十七 事業開始ノ豫定年月日
- 二十八 事業開始ノ豫定年月日
- 二十九 事業開始ノ豫定年月日
- 三十 事業開始ノ豫定年月日
- 三十一 事業開始ノ豫定年月日
- 三十二 事業開始ノ豫定年月日
- 三十三 事業開始ノ豫定年月日
- 三十四 事業開始ノ豫定年月日
- 三十五 事業開始ノ豫定年月日
- 三十六 事業開始ノ豫定年月日
- 三十七 事業開始ノ豫定年月日
- 三十八 事業開始ノ豫定年月日
- 三十九 事業開始ノ豫定年月日
- 四十 事業開始ノ豫定年月日
- 四十一 事業開始ノ豫定年月日
- 四十二 事業開始ノ豫定年月日
- 四十三 事業開始ノ豫定年月日
- 四十四 事業開始ノ豫定年月日
- 四十五 事業開始ノ豫定年月日
- 四十六 事業開始ノ豫定年月日
- 四十七 事業開始ノ豫定年月日
- 四十八 事業開始ノ豫定年月日
- 四十九 事業開始ノ豫定年月日
- 五十 事業開始ノ豫定年月日

- 第六條 設備要領書ニ左ニ掲タル事項ヲ記載ス其シ敷事業ノ大要ヲ記載スルハ其ノ書類ニ
 一 建物ノ種類及面積並ニ構造ノ概要
 二 繰繰機ノ名稱、簽數及緒數
 三 繰繰機ノ窓數
 四 煮繭機ノ名稱、煮繭能力及臺數
 五 生絲ノ整理及検査ニ關スル設備ノ種類、名稱及員數
 六 繭ノ乾燥及貯蔵ニ關スル設備ノ名稱、能力及員數
- 第七條 製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 一 繰繰又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハサル製絲工場ニ於テ新ニ繰繰又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハントスルトキ
 二 繰繰機又ハ繰繰機ヲ増設シ又ハ廢棄セントスルトキ
- 第八條 左ニ掲タル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ハ其效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因ツテ設立タル法人カ引續キ其ノ事業ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 製絲業者死亡シ又ハ解散シタルトキ
 一 免許ヲ受ケタル製絲工場ニ付事業ノ廢止アリタリトキ當平正月三十一日迄ハ一平間
 二 免許ヲ受ケタル製絲工場滅失シタルトキ
 三 前項但書ノ場合ニ於テハ左ニ掲タル書類ヲ具シ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日以内農林大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

二 相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書類
 三 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ在リテハ定款、財産目録及
 三 貸借對照表

第九條 製絲業者ハ毎年七月三十一日迄ニ前年六月一日ヨリ當年五月三十一日迄ノ一年間
 ノ事業概況書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十條 左ニ掲クル場合ニ於テハ製絲業者ハ遲滞ナク農林大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一 製絲業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所若ハ事務所ヲ變更シタルトキ
 二 製絲業者タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキ
 三 製絲業者其ノ事業ヲ開始シタルトキ

四 製絲業者タル法人ノ代表者又ハ第四條第二項ノ代表者ニ變更アリタルトキ

五 製絲業者製絲工場ノ名稱ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ
 六 製絲業者其ノ事業ヲ休止シ又ハ休止シタル事業ヲ再ヒ開始シタルトキ

七 製絲業者其ノ事業ヲ廢止シタルトキ

八 製絲工場ノ全部又ハ一部滅失シタルトキ
 九 製絲業者タル法人其ノ組織ヲ變更シタルトキ
 十 製絲業者製絲工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ置キタルトキ又ハ之ヲ變更

シタルトキ

十一 製絲業者製絲業以外ノ事業ヲ新ニ兼營シタルトキ又ハ兼營事業ヲ廢止シタルトキ
 前項第九號ノ場合ニ於テハ組織變更アリタルコトヲ證スル書類、定款、財産目録及貸借
 對照表ヲ具シ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十一條 製絲業法第六條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

第十二條 本則ノ適用ニ關シ多條繰絲機(十以上ノ緒ヲ備フル繰絲機ヲ謂フ)ノ簽數ノ計

算ニ付テハ簽數ヲ計算スヘキ多條繰絲機ヲ通シ總緒數ヲ十ヲ以テ除シタル數ヲ以テ其ノ
 簽數トス

第十三條 製絲業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ製絲工場ノ所在地

第十四條 製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 一 第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
 二 免許又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十五條 製絲業者本則ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ届出ヲ怠リタルトキハ五

十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 本令の製絲業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者

第十八條 各號ノ業ニ該當スル者及其ノ包括承繼人トシテ該業ニ従テ同法ニ依リ免許ヲ受ケタル者

一 製絲業法施行ノ際現ニ製絲業ヲ行ハル者ヲ以テ製絲工場ヲ有スル者トシテ一年間

二 製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會

三 製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ヲ建設工場ヲ實施シツケル者トシテ一年間

第十八條 前條ノ規定ニ該當スル者ハ製絲業法施行ノ日ヨリ二月内ニ製絲工場毎ニ左ニ掲

テタル事項ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

一 最近二年間ニ於ケル事業ノ概況

二 前條第三號ニ該當スル者ニアリテハ製絲工場ノ建設工事は著手シタル年月日其ノ工

事進捗ノ程度及事業開始ノ豫定年月日以上ノ事項ヲ製絲業法附則第二項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スヘキ事業計畫書ニハ繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ニ在リテ

前項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スヘキ事項ヲ掲返又ハ棟裝以後ノ工程ノ進行ヲ製

絲工場ニ在リテハ同條同項第一號及第五號並ニ同條第二項各號ニ掲タル事項ヲ記載スル

シ

第六條ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スヘキ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第十九條 左ニ掲タル場合ニ於テハ農林大臣ハ第三條第一項第一號ノ規定ニ拘ラス製絲業

ノ免許ヲ爲スコトアルヘシ

一 本令施行前一年内ニ滅失シタル製絲工場ヲ有シタル者又ハ其ノ包括承繼人同一場所

ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申

請シタルトキ

二 本令施行ノ際貸付中ナリシ製絲工場ヲ返還ヲ受テ製絲業ヲ行ハントスル者其ノ製絲

工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

三 製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル

者又ハ前二號ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者當該製絲工場滅失シタル處爲同一場所ニ於

テケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付滅失シタル日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シ

タルトキ

前項ノ免許申請書ニハ第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル書類ノ外同項第一號又ハ第三號ノ

場合ニ在リテハ滅失ノ時期及原因並ニ滅失シタル製絲工場ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書

類ヲ、同項第二號ノ場合ニ在リテハ本令施行ノ際貸付中ナリシコトヲ證スル書類ヲ添附

スルベシ

製絲業法施行規則抄

二七九

- 一 養蠶業ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 二 蠶繭ノ検査ニ關スル施設
- 三 蠶繭ノ取引方法ノ改善ニ關スル施設
- 四 蠶繭病ノ豫防ニ關スル施設
- 五 養蠶業ニ關スル研究及調査聯合
- 六 養蠶業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 七 前各條ニ掲タルモノノ外養蠶業ヲ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設
- 第十八條 養蠶業組合ハ其ノ地區内ノ養蠶實行組合ヲ以テ其ノ組合員トス
- 第十九條 養蠶實行組合ハ一定ノ地區内ノ養蠶者ヲ以テ之ヲ組織シ養蠶業ニ關シ組合員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 養蠶實行組合ハ法入トス
- 養蠶實行組合ノ地區ハ市町村ノ區域ヲ超ユルコトヲ得ス
- 前項ノ區域ニ増減アリタルトキハ其區域ヲ地區トスル養蠶業組合ノ地區モ亦之ニ應シテ増減アリタルモノトス

- 第三十條 養蠶實行組合其ノ名稱中ニ養蠶實行組合ナル文字ヲ用ズ本シテ
- 第二十一條 養蠶實行組合ヲ設立スルニ其ノ地區内ニ養蠶者七人以上設立者ヲ爲シ規約ヲ作製スルコトヲ要ス
- 規約ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ設立者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス
- 第三十條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十一條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十二條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十三條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十四條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十五條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十六條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十七條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十八條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第三十九條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十一條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十二條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十三條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十四條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十五條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十六條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十七條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十八條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四十九條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス
- 第五十條 本組合ニ加入スル者ハ其ノ姓名及住所ハ登記簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三十二條 養實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以内ニ規約、役員ノ氏名及住所並ニ
設立ノ年月日ヲ具シ行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
前項ノ規定ニ依リ届出タル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ日ヨリ二週間以内ニ
之ヲ届出ツヘシ

第二十三條 養實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ
設立ノ登記ヲ爲スヘシ

一 第二十一條第二項第一號及第四號ニ掲クル事項

二 設立ノ年月日

三 理事ノ氏名及住所

前項ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十四條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

第二十五條 養實行組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

第二十六條 民法第三十八條第一項、第四十四條、第四十八條、第五十條乃至第六十六條

第六十八條乃至第七十條及第七十二條乃至第八十二條並ニ非訟事件手續法第三十五條、

第三十六條、第三十七條ノ二、第百十七條、第百十九條乃至第百二十二條、第百三十六

條乃至第百三十八條、第百四十二條、第百四十三條、第百四十七條乃至第百五十條、第
百五十條ノ三乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ養實行組合
ニ之ヲ準用ス

民法第三十八條第一項 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但定款
ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

同第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス
法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事
及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其ノ賠償ノ責ニ任ス

同第四十八條 法人カ其ノ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テ
ハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス
同第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三ヶ月内ニ財産目録ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ
事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

同第五十二條 法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス
同第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社

同第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル範圍ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得不得ニ依リテ之ヲ定メ
 同第五十五條 理事ハ定款ニ密附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

同第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ選補ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス
 同第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

同第五十八條 法人ニハ定款ニ密附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得
 同第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ
 一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト

同第六十條 社団法人ノ理事ハ少クテモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス
 同第六十一條 社団法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得
 同第六十二條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第六十三條 社団法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ
 同第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テハ決議ヲ爲スルコトヲ得

同第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス
 同第六十六條 社団法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ社員ハ表決權ヲ有セス
 同第六十七條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散スルハ得
 一 定款又ハ密附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
 二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
 三 破産
 四 設立許可ノ取消

同第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散スルハ得
 一 總會ノ決議
 二 社員ノ死亡
 同第六十九條 社団法人ハ社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

同第七十條 社団法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ
 同第七十一條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第七十二條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第七十三條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第七十四條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第七十五條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第七十六條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第七十七條 社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此ノ定款ハ定款ヲ以テ増減スルコトヲ得

同第三十七條ノ二 第百二十九條ノ三及ヒ第百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

同第百二十九條ノ三 商法第百二十四條又ハ第百九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ關シテ與ヘシムルコトヲ得其ノ額ハ取置役及監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

同第百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

同第百二十四條 取締役ハ其選任後滯滞ナク第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一號ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任シ裁判所ニ請求スルコトヲ得

同第百九十八條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當リタル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ得

同第百二十二條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定數ニ記載スルニ非サレハ其效ナシトシテ之ヲ變更スルコトヲ得

一 發起人カ受タヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受タヘキ者ノ氏名

二 金額以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與ル株式ノ數

三 會社ノ負擔ニ關スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受タヘキ報酬ノ額

同第百二十五條 創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金額以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與ル株式ノ數ヲ減シタルトキハ

其者ハ金額ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

非訴事件手續法第百十七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

同第百十九條 各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿ヲ備フ

同第百二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ後タタル場合ニ於テハ根據事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

同第百二十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス銀行ノ清算ノ監督亦同シ

同第百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

裁判所カ銀行ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シテ亦同シ

同第百三十八條 左に掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 一 清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 二 清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 三 清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 四 清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 五 清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス
 同第百四十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覧ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其原本若クハ抄本ヲ交付ス
 同第百四十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ
 同第百四十七條 登記スヘキ事項ノ登記 其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請ヲ
 同第百四十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正
 同第百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ
 一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店其ノ一を記スルコトヲ要ス
 二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所、代理權ノ證明ヲ添付スルコトヲ要ス
 三 登記ノ目的及事由
 四 年、月、日
 五 登記所ノ表示
 同第百五十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者ア
 ルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得
 同第百五十一條 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申
 請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル費額
 ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス
 同第百五十二條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適合サルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下ス
 ヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 同第百五十三條 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコト
 ヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シテ一月ヲ超ニサル期間ヲ定メ其ノ期間内ニ異議ヲ申立テキトキハ登記
 ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ
 同第百五十四條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

同第百五十一條ノ三、異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スルコトキハ其
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
同第百五十一條ノ四、異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判力確定シタルトキハ登記所ハ繼續ヲ以テ登記ヲ抹
消スヘシ

同第百五十一條ノ五、第三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於
テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ
支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク登記ヲ抹消スヘシ
同第百五十一條ノ六、登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ
爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ
同第百五十二條、刪除

同第百五十三條、刪除

同第百五十四條、商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ
必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

同第百五十五條、司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

同第百五十六條、登記簿ノ複製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

同第百五十七條、本條ニ登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ
規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

同第百七十五條、清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス
前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

同第百七十六條、清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及ヒ商法第九十條第二號及ニ第三號ニ掲ケタル事項ヲ證ス
ル證明ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百七十七條、商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル證明ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第九十條、清算人ノ選任アリタルトキハ其ノ清算人ハ一週間内ニ本店及支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スル
コトヲ要ス

一、清算人ノ氏名、住所

二、會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名、住所、資格、職務、兼務ノ有無、
三、數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ代表ニ關スル規定
非訟事件手續法第二百六條、民法第八十四條、第一千零七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二
百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ民法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二
項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ノ過料ニ處テラ
ルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

同第百七十七條、過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
裁判所ハ裁判ヲ爲ス時當事者ノ陳述ヲ聽キ檢察官ノ意見ヲ求ムヘシ

二、清算人ノ氏名、住所

同第百七十七條、過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
裁判所ハ裁判ヲ爲ス時當事者ノ陳述ヲ聽キ檢察官ノ意見ヲ求ムヘシ

三、數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ代表ニ關スル規定

非訟事件手續法第二百六條、民法第八十四條、第一千零七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二
百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ民法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二
項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ノ過料ニ處テラ
ルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

當事者及之被事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス
 手續ノ費用ハ過料ニ處スル當渡アリタル場合ニ於テハ其當渡ヲ受テタル者ノ負擔トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ國庫ノ
 負擔トス
 抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及之前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ屬シタ
 ル費用ハ國庫ノ負擔トス
 同第二十八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス
 過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四節 産業組合製絲組合及製絲業組合

第四十六條 産業組合製絲組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 原料繭及其ノ受入方法ノ統一ニ關スル施設
 - 二 生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
 - 三 産業組合製絲ノ指導獎勵ニ關スル施設
 - 四 生絲ノ検査ニ關スル施設
 - 五 産業組合製絲ニ關スル研究及調査
 - 六 産業組合製絲ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
 - 七 前各號ニ掲クルモノノ外産業組合製絲ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設
- 第四十七條 製絲業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設

- 一 製絲業ノ指導獎勵ニ關スル施設
 - 二 生絲ノ検査ニ關スル施設
 - 三 製絲業ニ從事スル者ノ福利増進ニ關スル施設
 - 四 製絲業ニ關スル研究及調査
 - 五 製絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
 - 六 前各號ニ掲クルモノノ外製絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設
 - 七 前各號ニ掲クルモノノ外製絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設
- 第四十八條 産業組合製絲組合及製絲業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由
 アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得
- 第四十九條 産業組合製絲組合ハ其ノ地區内ニ於テ製絲ヲ爲シ又ハ製絲工場ヲ有スル産業
 組合及産業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス
- 第五十條 製絲業組合ハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ生絲ノ製造ヲ
 業トスル者ヲ以テ其ノ組合員トス
- 第五十一條 第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第四十條ノ規定ハ産業組合製絲
 組合及製絲業組合ニ之ヲ準用ス

第二章 蠶絲業組合聯合會

第五十七條 蠶絲業組合聯合會ハ左ノ七種トス

- 一 道府縣蠶業組合聯合會
 - 二 全國蠶業組合聯合會
 - 三 全國蠶種業組合聯合會
 - 四 全國產蠶組合聯合會
 - 五 全國製絲業組合聯合會
 - 六 全國生絲同業組合聯合會
 - 七 全國生絲輸出業組合聯合會
- 第五十八條 蠶絲業組合聯合會ハ蠶絲業組合又ハ道府縣蠶業組合聯合會ヲ聯結シテ其ノ共同ノ目的ヲ達成スルヲ以テ目的トス
- 第五十九條 蠶絲業組合聯合會ハ法人トス
- 第六十條 日本中央蠶絲會ハ蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合ノ聯絡並ニ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ目的トス
- 第七十條 日本中央蠶絲會ハ法人トス

第七章 農業動産信用法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ農業トハ耕作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務ヲ謂フハ農業水産動物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務及之ニ附隨スル業務ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ農業ト看做ス

第二條 本法ニ於テ農業用動産トハ農業ノ經營ノ用ニ供スル動産ヲ謂フ

第三條 本法ノ先取特權又ハ農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人ニ限ル

第二章 農業經營資金貸付ノ先取特權

第四條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人カ農業ヲ爲ス者ニ對シ左ニ掲クル行為ヲ爲スニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ其ノ債權ノ元本及利息ニ付債務者ノ特定動産

人上ニ先取特權不有ニ付テ、其ノ前、元本返却息ニ付テ、特權者、
一、農業用動産又ハ農業生産物ノ保存
二、農業用動産ノ購入
三、種苗又ハ肥料ノ購入
四、蠶種又ハ桑葉ノ購入
五、養蠶用木ノ購入
六、命令ヲ以テ定ムル水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ノ購入
前項ノ法人ノ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル法人ニ對シ其ノ農業
用動産ヲ保存シ又ハ購入スル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトモ亦前項ニ關シ、
第五條、農業用動産保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業
用動産ノ上ニ存在ス

農業生産物保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業生産物
ノ上ニ存在ス
前二項ノ先取特權ハ農業用動産又ハ農業生産物ニ關スル權利ヲ保存追認又ハ實行セシム
ル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ニ付テモ亦存在ス

第六條、農業用動産購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル農業
用動産ノ上ニ存在ス

第七條、種苗又ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル
種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス尚
桑樹ノ肥料購入資金貸付ノ先取特權ニ在リテハ其ノ果實タル桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニ

第八條、蠶種又ハ桑葉ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル
蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニ存在ス一併式至第四百四十四條ノ規定ハ蠶種ニ適用ス
第九條、新炭原木購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル新炭原
木ヨリ生産シタル薪炭ノ上ニ存在ス

第十條、水産養殖用種苗購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル
種苗ヲ養殖シタル物ノ上ニ存在ス
水産養殖用餌料購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル餌料ヲ
用ヒテ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

第十一條、先取特權ノ優先權ノ順位ニ付テハ農業用動産又ハ農業生産物ハ優先資金貸付ノ
先取特權ハ動産保存ノ先取特權トシテ農業用動産又ハ薪炭原木ノ購入資金貸付ノ先取特權
ハ動産購買ノ先取特權トシテ種苗若ハ肥料、蠶種若ハ桑葉又ハ水産養殖用ノ種苗若ハ餌料

本法施行ノ期日ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第三條ノ六ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第三條ノ七ニ農業用動産ノ抵當權ニ關スル登記ヲ受タルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納
スルコトヲ得ル

一 抵當權ノ取得ハ其ノ抵當權額ノ價額金額ノ千分ノ二以下ノ額好又

十但シ稅額金二十錢未満ナルトキハ二十錢トス

二 抹消シタル登記ノ回復
農業用動産每一箇 金十錢

三 假令ノ登記ノ抹消又ハ農業用動産每一箇 金十錢

四 附 登記ノ抹消又ハ農業用動産每一箇 金五錢

但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

五 登記ノ更正 變更又ハ抹消
農業用動産每一箇 金十錢

三但シ三件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

昭和八年三月二十八日法律第二十四號

米穀統制法

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節シ米穀ノ統制ヲ圖ル爲本法ニ依リ米穀ノ買入及

賣渡ヲ行フニ當リ其ノ當額又ハ東道ニ其ノ長官機關ハ其ノ當額又ハ東道ニ其ノ長官機關ハ其ノ當額

第二條 政府ハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公定シ之ヲ告示ス

前項ノ最低價格及最高價格ハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ米穀生産費其家計費及物價其其他ノ

經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム米穀其ノ前項ノ規定ニ依リ定ムル所ニ依リ物價其變動著

前項ノ規定ニ依リ定ムル最低價格又ハ最高價格ハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ物價其變動著

シ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ

改定スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ最低價格又ハ最高價格ヲ維持スル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ最低價格

ニ依ル賣渡ノ申込又ハ最高價格ニ依ル買入ノ申込ニ應ジテ米穀ヲ買入又ハ賣渡ヲ爲ス

第四條 政府ハ道府縣ヨリ該地域外ニ又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ内地ニ移出スル米穀ノ數量ヲ

月別平均的ナラシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ出廻期ニ於テ米穀ノ買入又ハ移出廻期後

ニ於テ米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要ニ應ジ所有米穀ノ貯蔵、買換、交換、加工及整理ノ爲ニスル賣渡並ニ

輸入ヲ目的トスル米穀ノ買入及輸出ヲ目的トスル米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

第六條 政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ買換ニ代ヘ買換入爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得

第七條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ズレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ粟、高粱又ハ黍ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第九條 政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀、粟、高粱又ハ黍ノ輸入税ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

第十條 米穀生産費、家計費並ニ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 政府ハ前條ニ規定スル事項其ノ他米穀ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ調査爲テ必要アリト認ムルトキハ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他積之場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏又ハ吏員ハ其ノ身分ヲ證明スル證票ヲ携帯スベシ

第十二條 第七條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入若ハ輸出シ又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ粟、高粱若ハ黍ヲ輸入シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀、粟、高粱又ハ黍ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第七條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出ヅアルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第七條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

第十三條 第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨グタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

米穀法ハ之ヲ廢止スルニ當リ本法第七條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ本法第七條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタ

本法施行前ニ米穀法ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用スルコトハ命令ヲ以テスル

(參照)

天正十年四月四日公布法律第三十六號米穀法抄錄

米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ヲ定ムル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受ケルコト非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得

六 金錢債務臨時調停法

昭和七年九月六日法律第二十六號
(昭和七年勅令第二百四十九號)
(以テ同年十月一日ヨリ施行)

第一條 負債ノ整理ニ依リ誠實ナル債務者ヲ更生セシムル爲債權者債務者ノ互讓ヲ必要トスルトキハ當事者ハ本法ニ依リ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 調停ノ申立ハ昭和七年七月三十一日以前ニ發生シタル私法上ノ金錢債務ニシテ金額千圓ヲ超過セザルモノニ付之ヲ爲スコトヲ得但シ小作料其ノ他小作關係ヨリ生ジタルモノ及地代、家賃其ノ他借地借家關係ヨリ生ジタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ金額ニハ附帶ノ利息、違約金、費用又ハ手数料ノ額ヲ算入セズ既ニ元本ニ組入

タル此等ノモノニ付亦同ジ

第一項ノ金額ヲ超過スル債務ニ付調停ノ申立アリタル場合ト雖モ裁判所調停ヲ爲スル相當ト認メ且相手方ニ異議ナキトキハ調停ヲ爲スコトヲ得相手方期日ニ出頭シテ事件ノ内容ニ付陳述ヲ始メタルトキハ異議ナキモノト看做ス

第三條 調停ノ申立ハ相手方ノ住居、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リ決定ムル區裁判所ニ之ヲ爲スルコトヲ要ス
調停ノ申立ヲ受ケタル裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所ガ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同ジ
前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第四條 本法ノ調停ニ關シテハ借地借家調停法第二條、第四條ノ二、第六條乃至第二十三條及第二十六條乃至第三十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 事件ガ性質上調停ヲ爲スニ適セズ又ハ當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ調停ノ申立ヲ却下ス第七條第二項ニ該當スルトキ其ノ他調停ヲ爲スニ適當ナラザル事情存スルトキ亦同ジ
調停委員會前項ノ事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲サズ

第六條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟ガ繫屬スルトキ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ事

事件が調停ニ付セラレタル下キハ受訴裁判所ハ決定ヲ以テ調停ヲ終了スル第七條ノ規定ニ依ル裁判確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシメズシテ強制執行手續又ハ競賣法ニ依ル競賣手續ヲ一時停止スルコトヲ得

民事訴訟法第百十二條、第百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定並前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第一項及第二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立タルコトヲ得

第七條ノ調停委員會ニ於テ調停成ラザル場合ニ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ調停委員ノ意見ヲ聽キ當事者雙方ノ利益ヲ衡平ニ考慮シ其ノ資力、業務ノ性質、既ニ債務者ノ支拂ヒタル利息手数料内入金等ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ利息、期限其ノ他債務關係ノ變更ヲ命ズル裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ裁判ニ於テハ債務ノ履行其ノ他財産上ノ給付ヲ命ズルコトヲ得

銀行其ノ他官廳ノ監督ヲ受ケテ金融業務ヲ取扱フ者ノ債權ニ付テハ其ノ業務ノ機構ヲ害スル虞アリトキハ前項ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

第八條前條ノ規定ニ依ル裁判ハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依ル之ヲ爲ス

第九條 第七條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

第十條 第七條ノ規定ニ依ル裁判確定シタルトキハ其ノ裁判ハ裁判上ノ和解ト同一ノ効力ヲ有ス

第十一條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ頗末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ効力ヲ有ス

本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

金錢債務臨時調停ノ手数料等ニ關スル件

第一條 金錢債務臨時調停ノ申立ノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ

金錢債務臨時調停ノ手数料等ニ關スル件

調停ヲ求ムル債務ノ金額ハ申立ハ五拾圓迄ハ貳拾錢
 同 百圓 貳拾錢
 同 貳百五十拾圓迄 五拾錢
 同 五百圓迄 壹圓
 同 千圓迄 貳圓
 同 千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ壹圓ヲ加フ

第二條 大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記録ノ閲覧若クハ謄寫
 又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手数料並ニ調停委員
 及調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

本令ハ金錢債務臨時調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年七月十二日公布勅令第三百三十九號
 借地借家調停法ノ手数料等ニ關スル件抄錄

第二條 借地借家調停法第三十條ノ手数料ハ各一件ニ付貳拾錢トス
 第三條 調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ日當ハ一日六圓以内止宿料ハ一
 日八圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四條 調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニヨリ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ用ズル水
 路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃其ノ等級ヲ設ケザルモノニ
 在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ汽船ヲ通ゼザル水路ニ在リテハ一海運毎ニ拾五錢其ノ他ニ在リテハ
 一里毎ニ九拾錢トス但シ一海運未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨テ

金錢債務臨時調停法ノ規定ニ依ル手数料ハ收入
 印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得ルノ件
 昭和七年九月二十一日司法省令第三十六號

金錢債務臨時調停法ノ規定ニ依ル手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得
 本令ハ金錢債務臨時調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七〇 農村負債整理組合法

昭和八年三月二十九日法律第二十二號

第一章 總則
 第一條 本法ハ農山漁村ニ居住スル者ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ精神ニ則リ其ノ者ヲ
 令テ負債整理組合ヲ組織セシメ組合ノ樹立シタル負債償還計畫及經濟更生計畫ヲ履行セ
 ンシメ以テ其ノ負債ノ整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トス

第三條 本法ニ於テ負債トハ負債整理組合ノ組合員ノ負擔スル私法上ノ金錢債務ニシテ組合設立前ニ生シタルモノヲ謂フ但シ本法施行後ニ生シタルモノハ命令ニ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタラズニ限ル

第三條 負債整理組合ノ組合員本法ニ依リ負債整理ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ負債整理組合ニ對シ其ノ旨ヲ申出ツヘシ

負債整理組合前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其ノ他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ニ付本條ニ爲スヘシ

第四條 前條ノ斡旋ニ依リ協定成ラサル負債ニ付テハ負債整理組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村負債整理委員會ニ對シテ其ノ協定ノ斡旋ヲ請求スルコトヲ得

市町村負債整理委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 前條ノ市町村負債整理委員會ノ斡旋ニ依リ協定成ラサルトキ又ハ負債整理組合ノ事務所ノ所在地タル市町村ニ市町村負債整理委員會ナキ爲其ノ斡旋ニ依ルコト能ハサルトキハ債權者タル組合員又ハ債權者ハ金錢債務臨時調停法第二條第一項ノ期日ニ關スル制限ノ規定ニ拘ラス同法ニ依リ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六條 第三條第一項ノ規定ニ依リ負債整理ノ申出アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法

ニ依リ調停事件繫屬スルトキハ裁判所又ハ調停委員會ハ第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依リ斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第七條 負債整理組合ヨリ負債整理資金ノ貸付ヲ受ケタル組合員カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル負債整理組合ノ不動産其ノ他ノモノヲ取得ニ關シテ地方法稅ヲ課スル事ト得ス

第八條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受テ第十一條ノ事業ヲ行フモノハ本章ニ適用ニ關シテ本條ノ負債整理組合ト看做ス

第九條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スルモノトシテ資金

第十條 負債整理組合ハ組合員ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ精神ニ則リ組合員ヲシテ其

第十一條 負債整理組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 組合員ノ負債償還計畫及經濟更生計畫ヲ樹立

十三 保證責任ノ組合ニ在リテハ出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法並ニ保證金額ニ關スル規定

第十六條 前條第一項ノ認可ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ三年間トス第十七條 負債整理組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以内ニ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スルシ

一 第十五條第二項第一號乃至第五號及第十一號ニ掲ケタル事項

三 設立認可ノ年月日

四 理事及監事ノ氏名及住所

第十八條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 負債整理組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

第二十條 負債整理組合ノ設立登記ノ申請書ニハ無限責任ノ組合ニ在リテハ産業組合法第二十條ノ五第一項第三號ニ掲ケタル事項ヲ、保證責任ノ組合ニ在リテハ同條同項第一號ニ

第二號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル組合原簿ヲ添附スヘシ

組合員ノ加入ニ因ル變更登記ノ申請書ニハ無限責任ノ組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任ノ組合ニ在リテハ加入者ノ氏名住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ添附スヘシ

第十七條第三項及第十八條並ニ産業組合法第十六條ノ四第一項及第十六條ノ五第二項ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス但シ同法第十六條ノ四第十項中地方長官トテハ事務所所在地ノ登記所トス

第二十一條 負債整理組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ヲ多ク組合員ノ負債償還ノ一部ニ充ツル爲積立金ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ積立金ノ管理ハ處分其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 負債整理組合ノ組合員ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外總組合員又三分ノ二以上ノ同意アルニ非テハ脱退スルコトヲ得

脱退シタル組合員ハ脱退前ニ生シタル組合ノ債務ニ付第十四條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第二十三條 負債整理組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦第十四條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第二十四條 産業組合法第三條、第四條、第六條、第七條、第二十三條、第二十五條乃至第三十一條ノ二、第三十二條乃至第三十八條、第三十九條、第四十九條、第六十條第一項(清算ニ關スル規定ヲ除ク)、第六十條ノ二、第六十一條(清算ニ關スル規定ヲ除ク)、第六十二條、第六十五條、第六十八條、第六十九條、第七十四條ノ二、第七十五條及第九十三條ノ二、民法第四十七條、第四十八條、第六十條、第七十三條乃至第八十二條及第八十四條第一號並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第三十七條、第三十九條乃至第四百二十二條、第四百二十三條、第四百四十七條乃至第四百五十七條、第四百七十五條乃至第四百七十七條及第四百六條乃至第四百八條ノ規定ハ負債整理組合ニ之ヲ準用ス但シ産業組合法第九十三條ノ二中三百圓トアルハ二百圓トシ民法第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ二週間トス産業組合法第十一條、第十二條、第十七條第一項、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十二條、第四十五條、第四十八條、第五十三條、第五十六條及第五十七條ノ規定ハ保證責任ノ負債整理組合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 負債整理組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ同ハス組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ヲ爲シ組合財産ヲ處分シタルトキハ六年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ハ之ヲ適用セス

第三章 負債整理事業資金特別融通及損失補償

第二十六條 市町村ハ負債整理事業ヲ助成スル爲ニ必要アリト認ムルトキハ負債整理組合又ハ第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 市町村カ前條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ五年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條 北海道府縣ハ第二十六條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村カ損失ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以内ノ金額(損失補償金)ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二十九條 政府ハ前條ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣カ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ損失補償金ノ半額ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得但シ補給金ノ總額ハ三千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條 第二十八條ノ規定ニ依リ北海道府縣カ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ損失補償金中其ノ四分ノ一ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テ負擔ス

ヘキ旨ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔ニ依キ
 金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
 第三十一條 第二十六條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村ノ受ケタル損失及
 其ノ額ハ負債整理事業資金特別融通損失審査會之ヲ決定ス
 負債整理事業資金特別融通損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十二條 第二十九條ノ契約ニ基キ政府カ北海道府縣ニ對シ支拂フヘキ補給金ハ國債證
 券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得
 第三十三條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコ
 トヲ得
 第三十四條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 登錄稅法第十九條但書中「第十四號」ヲ「第十四號乃至第十六號」ニ改メ同條第八號中「自
 作農ノ創設維持」ノ下ニ「又ハ負債整理」ヲ加ヘ「又ハ産業組合聯合會」ヲ「産業組合聯合
 會、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人」
 ニ改メ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

十五 市町村、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ
 行フ法人カ負債整理事業資金貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
 十六 市町村、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ
 行フ法人ヨリ負債整理事業資金ノ貸付ヲ受ケタル者ガ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至
 リタル場合ニ於ケル市町村、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ
 負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記

七 岡山縣産業組合講習所規程

昭和三年八月縣告示第六百六號

第一條 産業組合及農業倉庫ノ實務ニ従事スル者ヲ教養スル爲縣ニ産業組合講習所ヲ置ク
 第二條 産業組合講習所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長 一人
 講師 若干名
 主事 二人
 書記 若干名
 第三條 所長ハ岡山縣内務部長ヲ以テ之ニ充ツ

講師主事及書記ハ知事之ヲ任命又ハ囑託ス

第四條 所長ハ知事ノ命ヲ承ケ所務ヲ統轄ス

講師ハ講習生教養ノ任ニ當ル

主事及書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五條 講習生ノ定員ハ二十名以内トシ開閉ノ時期ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第六條 講習所ニ於テ習得セシムヘキ科目左ノ如シ但シ時宜ニヨリ所長ニ於テ増減スルコトアルヘシ

一 民法 大意

一 商法 大意

一 産業組合關係法規

一 農業倉庫關係法規

一 經濟學 大意

一 産業組合概論

一 産業組合史

一 産業組合及同聯合會ノ經營

一 農業倉庫概論

一 農業倉庫ノ經營

一 簿記ノ原理及其ノ應用

一 登記其ノ他諸報告書類ノ作成

一 科外講話

一 實務ノ實習

第七條 講習所入所志願者ハ左記各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一 現ニ産業組合、産業組合聯合會及農業倉庫、聯合農業倉庫ノ實務ニ従事スル者

二 將來産業組合、産業組合聯合會及農業倉庫、聯合農業倉庫ノ實務ニ従事セントスル者

三 前各號ノ外所長ニ於テ適當ト認ムル者

第八條 講習所入所志願者ハ入所願書ニ履歷書及支廳長市長又ハ産業組合郡部會長ノ推薦書ヲ添ヘ所長ニ願出ツヘシ

第九條 講習生入所ノ許可ハ所長ニ於テ詮衡又ハ試験ニ依リ之ヲ決定ス

入所ヲ許可セラレタル者ニ對シテハ手當トシテ金參拾圓以内ヲ給與ス

第十條 講習生ハ所長ノ許可ヲ受クルニ非レハ退所スルコトヲ得ス

第十一條 本規程又ハ所長ノ發スル命令ニ違反シ若ハ第十二條ノ事故ニ依リ講習生ヲ免セ

ラレタルトキハ第九條第二項ノ手當金ハ指定ノ時限ニ還納セシムルモノトス但シ所長ニ於テ特殊ノ事情アリト認ムルトキハ手當金ノ全部又ハ其ノ一部ノ還納ヲ免除スルコトアルヘシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退所セシム

- 一 素行不良ナル者
- 二 成業ノ見込ナキ者
- 三 出席常ナラサル者

第十三條 學業ノ成績ヲ判定スル爲試験ヲ行フ

前項ノ試験ニ合格シタル者ニハ修業證書ヲ授與ス



〔二〕 訓令、告示、通牒及處分例

一 産業組合取扱手續

昭和二年七月三十日縣訓令第三十一號
(市町村長宛)

第一條 産業組合ノ設立許可ヲ申請シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 組合ノ設立ヲ必要トスル事情

二 区域内現住戸數及設立者ノ職業別人員

三 設立當時理事又ハ監事タルヘキ者ノ資産性行及其ノ適否

第二條 組合又ハ組合員ヨリ左記書類ヲ提出シタルトキハ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 合併認可申請書

二 解散認可申請書

三 總會又ハ總代会ノ決議取消請求書

第三條 組合ニシテ經營困難ニ陥リ又ハ不審ノ廉アリト認ムルトキハ其ノ事情ヲ具申スヘシ

書類

四

- イ 製絲業法施行規則第四條第一項第一號、第二號及第五號ニ掲クル事項
- ロ 組合員數(聯合會ニ在リテハ所屬組合數)及其ノ出資口數
- ハ 區域内ニ於ケル養蠶戶數及上繭產額並ニ組合員(聯合會ニ在リテハ所屬組合ノ組合員)中養蠶者數及其ノ上繭產額
- ニ 繰絲機百五十釜未滿ノ設備ヲ爲サントスルモノニ在リテハ百五十釜以上ト爲シ得サル特別ノ事由
- 二 醫療設備ヲ有スル組合又ハ聯合會ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載シタル書類
 - イ 區域内ニ於ケル總戶數、組合員數(聯合會ニ在リテハ所屬組合數)及出資口數
 - ロ 醫療設備ノ概要
 - 敷地ノ面積
 - 建物ノ種別、階數及面積
 - 配置及附近略圖
- 患者ヲ收容スルモノニ在リテハ其ノ收容定員其ノ他參考トナルヘキ事項
- ハ 醫師ノ數、經歷、診療分擔科名及診療ニ従事スル條件
- ニ 調劑員、看護員其ノ他ノ診療介助者ノ男女別數及介助ノ内容別

- ホ 醫療事業ニ關スル起業費ノ收支概算並ニ事業ノ收支概算
- ヘ 診療ニ關スル規程
- ト 區域内ニ於ケル診療科別開業醫師數
- 三 區域カ郡、市又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區域ヲ超ユル組合ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載シタル書類

- イ 郡、市又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區域ヲ超ユル區域ヲ必要トスル事由
 - ロ 組合員數及其ノ分布狀態並ニ出資口數
 - ハ 事業計畫及事業執行ノ方法
 - ニ 區域内ニ於テ同種事業ヲ營ム組合アラハ其ノ區域及事業トノ關係
- 産業組合法施行規則第十九條ノ二第二項及第三項ノ規定ニ依ル認可申請ニ付指揮ヲ請ハントスルトキハ意見ヲ具シ前項ノ書類ノ外最近ニ於ケル財産目錄、貸借對照表及事業報告書ノ寫ヲ添附スヘシ

第五條 昭和七年農林省令第三十三號(産業組合法第六條ノ三ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部委任ニ關スル件)第一條各號ニ掲クル組合ノ設立ノ許可又ハ定款ノ變更、繼續解散若ハ合併ノ認可ニ付申請書ヲ提出アリタルトキハ地方長官關係地方長官ト協議ノ上其ノ頗末及意見ヲ具シ其ノ申請書ヲ進達スヘシ

前項ノ規定ハ昭和七年農林省令第三十三號第三條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ノ一部委任アリタル聯合會ニ付之ヲ準用ス産業組合法第七十九條第二項ノ規定ニ依ル聯合會ノ合併認可ニ付亦同シ

第六條 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ解散アリタルトキハ左ノ事項ヲ具シ産業組合ニ在リテハ一箇月分ヲ取纏メ産業組合聯合會ニ在リテハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

一名 稱

二 解散ノ原因、總會ノ決議ニ因ル場合ニ在リテハ尙其ノ決議ヲ爲スニ至リタル事情

三 解散ノ年月日

四 政府融通資金借入金ノ有無、若シ有ラハ各資金別未償還金額及其ノ償還ニ關スル見込

第七條 前年七月一日ヨリ當年六月三十日迄ノ間ニ事業年度ノ終了シタル産業組合ノ當該事業年度ニ於ケル狀況ヲ左ノ區分ニ從ヒ様式第一號ニ依リ毎年九月三十日迄ニ報告スヘシ

一 産業組合總括概況

二 信用組合概況(單營)

三 販賣組合概況(單營)

四 購買組合概況(單營)

五 利用組合概況(單營)

六 信用事業ヲ行フ産業組合概況

七 販賣事業ヲ行フ産業組合概況

八 購買事業ヲ行フ産業組合概況

九 利用事業ヲ行フ産業組合概況

第八條 産業組合及産業組合聯合會ノ前年十二月三十一日現在ニ於ケル種類別及組織別數ヲ様式第二號ニ依リ毎年一月十五日迄ニ報告スヘシ

第九條 産業組合及道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付毎年六月三十日及十二月三十一日現在ノ狀況ヲ様式第三號ニ依リ各翌月末日迄ニ報告スヘシ

第十條 産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引若ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合又ハ産業組合聯合會カ産業組合法施行規則第十條ノ規定ニ依リ書類ヲ差出シタルトキハ遲滞ナク其ノ原本ヲ組合又ハ聯合會毎ニ差出スヘシ

第十一條 産業組合臺帳及産業組合聯合會臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一名 稱

二 組織

産業組合及産業組合聯合會取扱心得

種目	購買組合聯合會		其ノ他		合計		備考
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
産業用							調査組合數
小計							
經濟用							
小計							
其ノ他							
合計							

(注意)

- 一 肥料ニ付テハ硫酸安母尼亞、大豆粕、過磷酸石灰、石灰窒素、硫酸加里、魚肥、配合肥料其ノ他ノ種目ニ分子數量ハ臚ニ換算シテ記載スルコト
- 二 肥料以外ノ購買物ニ付テハ其ノ主ナルモノニ付種目別ニ記載シ、殘餘ノモノハ一括シテ總金額ヲ記載スルコト
- 三 取扱組合數關ニ於ケル小計及合計ノ記載ニ付テハ(口)販賣事業(一)販賣物細別注意第二號ニ準スルコト

(二) 賣却物細別

種目	數量	價額	取扱組合數	備考
産業用				
小計				
經濟用				
小計				
産業及經濟兩用				
小計				
合計				

(注意)

- 一 調査組合中ニ産業組合法第二條第一項第二號ノ規定ニ依リ經濟ニ必要ナル物ノミヲ取扱フ購買組合アル場合ニ於テハ本表ヨリ此ノ種該當組合分ノミヲ抽出シ本表ニ準シ(二)賣却物細別表ヲ作成スルコト
- 産業組合及産業組合聯合會取扱心得

信用販賣購買組合				
信用販賣利用組合				
信用購買利用組合				
信用販賣購買利用組合				
計				

(注) 産業組合法第二條第一項各號ニ掲クル組合アル場合ニ於テハ其ノ數ヲ各種類別ニ附記スルコト
乙 産業組合聯合會數

種別	有限責任	保證責任	計
信用組合聯合會			
販賣組合聯合會			
購買組合聯合會			
利用組合聯合會			
販賣購買組合聯合會			
販賣利用組合聯合會			

購買利用組合聯合會			
販賣購買利用組合聯合會			
信用販賣組合聯合會			
信用購買組合聯合會			
信用利用組合聯合會			
信用販賣購買組合聯合會			
信用販賣利用組合聯合會			
信用購買利用組合聯合會			
信用販賣購買利用組合聯合會			
計			

第三號
其ノ一 産業組合ノ狀況

總組合數	
調査組合數	

産業組合及産業組合聯合會取扱心得

種 目		組 合 員 數 (内法人ノ數)		種 目		種 目	
出 資 總 額	種 目	額	前年同期ニ比シ増減 ▲印ハ減	種 目	種 目	種 目	種 目
拂込済出資金				種 目	種 目	種 目	種 目
準備金及諸積立金				種 目	種 目	種 目	種 目
借 入 金				種 目	種 目	種 目	種 目
貯 金				種 目	種 目	種 目	種 目
計				種 目	種 目	種 目	種 目
貨 出 金				種 目	種 目	種 目	種 目
販 賣 高				種 目	種 目	種 目	種 目
購 買 高				種 目	種 目	種 目	種 目
利 用 料				種 目	種 目	種 目	種 目
預 金				種 目	種 目	種 目	種 目
有 價 證 券				種 目	種 目	種 目	種 目
計				種 目	種 目	種 目	種 目

注 意

一 販賣高購買高及利用料ノ記載ニ付テハ何レノ組合モ事業年度ノ如何ニ拘ラズ毎年一月一日ヨリノ累計高ヲ、其ノ他ノ事項ニ付テハ調査ニ於ケル現在高ヲ記載スルコト

二 販賣高中ニハ農業者ノ事業トシテ取扱ヘル販賣高ヲ合算スルコト

三 前年同期ニ比シ増減ヲ示セルモノアリタルトキハ其ノ理由ヲ備考欄ニ記載スルコト

其ノ二 道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ノ狀況

種 目	種 目	種 目	種 目
現 金	種 目	種 目	種 目
計	種 目	種 目	種 目

種 目		種 目		種 目	
出 資 總 額	種 目	種 目	種 目	種 目	種 目
拂込済出資金		種 目	種 目	種 目	種 目
準備金及諸積立金		種 目	種 目	種 目	種 目
借 入 金		種 目	種 目	種 目	種 目
貯 金		種 目	種 目	種 目	種 目
計		種 目	種 目	種 目	種 目

産業組合及産業組合聯合會取扱心得

計	金 裕 餘			貨 出 入 金	計
	現 金	有 價 證 券	預 金		

(注意) 前年同期ニ比シ甚シキ増減ヲ示セルモノアリタルトキハ其ノ理由ヲ備考ニ記載スルコト

三 産業組合及産業組合聯合會財産目録貸借
 對照表事業報告書及剩餘金處分案様式

昭和八年七月三十一日報告示第六百七十九號

産業組合法第三十條及産業組合法施行規則第十條ニ依リ提出スヘキ書類ノ様式左記ノ通定ム
 昭和二年岡山縣告示第六百三十五號ハ之ヲ廢止ス

第一産業組合
 甲財産目録

資 産

科目	目	備	要	金	額
繰込未済出資金	口數				
中央金庫出資金	全				
聯合會出資金	各聯合會別口數金額				
預 金	種別金額				
受 取 手 形	枚數				
有 價 證 券	種類及各金額				
土 地	地目及面積(事業用ト然ラサルモノトノ區分)				
建 物	所在棟數及坪數(全)				
器 具 機 械	種類別各點數				
什 物	全				
假 借 金	種別件數				
貸 付 金	種別件數				

財産目録貸借對照表事業報告書及剩餘金處分案様式

法人	
合計	

(注意)

- 一、 預約者ヨリ加入シタル者ノ職業別數ヲ附記スルコト
- 二、 保證責任組合ノ保證金額ヲ出資一口ニ付均一ナラサルトキハ其ノ概略ヲ附記スル事
- 二、 組合員タル法人數及出資口數

法人別	前年度末現在		本年度末現在	
	法人數	出資口數	法人數	出資口數
農事實行組合				
養蠶實行組合				
産業組合				
計				

(注意)

- 一、 組合員數額ニハ法人ヲ構成スル組合員ノ數ヲ記載スルコト
- 二、 備考欄ニハ法人ヲ構成スル組合員ニシテ本産業組合ニ未ダ加入セザル者ノ數ヲ記載スルコト
- 三、 出資ノ拂込

區別	前年度末現在高		本年度拂込高		本年度繰戻高		本年度末現在高	
	円	円	円	円	円	円	円	
各自拂込								
剩餘金拂込								
計								

(注意)

- 一、 剩餘金ヨリノ拂込額ノ本年度拂込ハ前年度剩餘金處分ニ依リ配當セラレタル剩餘金ヲ記載スルコト
- 二、 本年度繰戻ハ本年度配當者ノ拂込清出資額ヲ記載スルコト
- 四、 準備金及各種積立金

區別	前年度末現在高		本年度積立高		本年度處分高		本年度末現在高	
	円	円	円	円	円	円	円	
準備金								
特別積立金								
計								

財産目録貸借対照表事業報告書及剩餘金處分案様式

附 記	
積 立 内 課	處 分 内 課
準備金 前年度繰入金ヨリ 増加金ヨリ 繰戻ナルヨリ 特別積立金(前年度繰入金ヨリ) (前年度繰入金ヨリ)	準備金 持分繰戻ノ爲 損失繰補ノ爲 特別積立金 持分繰戻ノ爲 損失繰補ノ爲
円	円

(注 意) 本年度積立及本年度處分ノ金額ニ付テハ其ノ積立テ又ハ處分シタル種目別ノ金額ヲ附記シ向ホ處分ニ付テハ其ノ理由ヲ記載スルコト

五 借 入 金
(一) 借入金(當座借越金及手形ノ再割引ヲ除ク)及其ノ償還

借 入 先	前年度末現在額	年度内借入額	年度内償還額	本年度末現在額
産業組合中央金庫	円	円	円	円
信用組合聯合會				
銀行				
其ノ他				
計				

(二) 當座借越金及其ノ償還

借 入 先	前年度末現在額	年度内借入額	年度内償還額	本年度末現在額
産業組合中央金庫	円	円	円	円
信用組合聯合會				
銀行				
其ノ他				
計				

(三) 手形ノ再割引及其ノ決済

再 割 引 先	前年度末現在額	本年度再割引額	本年度決済額	本年度末現在額
産業組合中央金庫	円	円	円	円
信用組合聯合會				
銀行				
其ノ他				
計				

